

高崎高校同窓会報

2024
No.58

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

令和6年11月30日

47年ぶりの春高バレー出場!
県内大会4冠達成!



2024年11月2日(土)ALSOKぐんまアリーナ
※4冠は、新人戦、高校総体、インターハイ予選、春高バレー予選での優勝。

あの頃の高高 第2回

「浪人は当たり前」の風潮がまん延

やればできる！現役合格25%から90%へ躍進

●受験戦争・受験地獄と言わされた時代

大学受験が我が身から関係なくなると、母校の大学進学率の様子がひときわ気になり、自分のことは棚に上げて難関校に何人合格したとか週刊誌のランキング記事に「高崎高校」を探してみたりする。さて高高的現役合格率を高崎高校新聞、同窓会報などから可能な限りさかのぼってまとめた。

1960年代から70年代の大学受験は受験戦争、受験地獄と言われ、高高的現役合格率は概ね30%台であった。その頃の同窓生に話を聞くと、ノンビリムードで高望み、「浪人は当たり前」「浪人すればいい大学に入れる」という風潮がまん延していくそうだ。

1969（昭和44）年（68期）の大学入試は、学園紛争のため東大と東京教育大の入試が中止になり大混乱したという。各大学の合格点ラインは急上昇し、高高的現役合格率は25.1%となり、「高高始まって以来」と言われた。

共通一次元年の1979（昭和54）年（78期）は51.7%となり高高史上最高となつた。国公立大学の受験が原則一校となり、難関大では共通一次で「足切り」を行うので「高望みが減り、堅実であった」と進路指導部長の久保誠二先生は高高新聞に答えている。堅実な分、東大、京大の合格者が減少する結果ともなつた。筆者もこの学年で「例年よりも学力が劣ると言われていた」と学校は心配していたが、久保先生を旗頭に共通一次対策を熱心に指導してくれたことを記憶している。

1994年（93期）は79.2%、東大19人（現役17人）で現役東大合格者が全国6位。そして現役合格率は順調に上がり続け、2005年に90%台に乗った。一方、センバツに出場した2012年は東大合格者が3人に減少し「高高ショック」としている。

1995（平成7）年度から65分授業を導入。授業カット世代には信じられないかも知れないが、自習時間ゼロとなつた。センター試験とか共通テストとか大学入試制度が何回も変わり、先生方のご苦労と献身的な指導には頭が下がる思いであり、文武両道の中で受験に勝ち抜く高生に心からエールを送りたい。

編集委員長 新井重雄（78期）

【現役合格率】

昭和 42 年	1967 年	38.9%
昭和 43 年	1968 年	38.5%
昭和 44 年	1969 年	25.1%
昭和 45 年	1970 年	47.5%
昭和 46 年	1971 年	39.0%
昭和 47 年	1972 年	46.5%
昭和 48 年	1973 年	37.0%
昭和 49 年	1974 年	36.1%
昭和 50 年	1975 年	34.8%
昭和 51 年	1976 年	40.2%
昭和 52 年	1977 年	39.8%
昭和 53 年	1978 年	47.1%
昭和 54 年	1979 年	51.7%
昭和 55 年	1980 年	46.9%
昭和 56 年	1981 年	48.0%
昭和 57 年	1982 年	40.7%
昭和 58 年	1983 年	36.3%
昭和 59 年	1984 年	45.3%
昭和 60 年	1985 年	40.6%
昭和 61 年	1986 年	43.7%
昭和 62 年	1987 年	47.6%
昭和 63 年	1988 年	41.1%
平成 元年	1989 年	43.9%
平成 2 年	1990 年	48.8%
平成 3 年	1991 年	52.9%
平成 4 年	1992 年	66.2%
平成 5 年	1993 年	71.8%
平成 6 年	1994 年	79.2%
平成 7 年	1995 年	88.6%
平成 8 年	1996 年	83.2%
平成 9 年	1997 年	86.2%
平成 10 年	1998 年	84.7%
平成 11 年	1999 年	83.9%
平成 12 年	2000 年	86.9%
平成 13 年	2001 年	88.1%
平成 14 年	2002 年	82.5%
平成 15 年	2003 年	82.1%
平成 16 年	2004 年	82.9%
平成 17 年	2005 年	91.8%
平成 18 年	2006 年	91.2%
平成 19 年	2007 年	95.3%
平成 20 年	2008 年	91.8%
平成 21 年	2009 年	88.6%
平成 22 年	2010 年	87.3%
平成 23 年	2011 年	86.3%
平成 24 年	2012 年	90.0%
平成 25 年	2013 年	83.2%
平成 26 年	2014 年	91.0%
平成 27 年	2015 年	77.9%
平成 28 年	2016 年	90.2%
平成 29 年	2017 年	89.7%
平成 30 年	2018 年	82.4%
令和 元年	2019 年	81.3%
令和 2 年	2020 年	84.6%
令和 3 年	2021 年	90.4%
令和 4 年	2022 年	94.3%
令和 5 年	2023 年	91.4%

※資料により異同あり

●勉強する環境と生徒の意識変化

その後、現役合格率は再び低迷し、大学入試センター試験に変更され、1990（平成2）年（89期）から大躍進を見せた。翌1991年（90期）は1979年以来、初めて50%を上回り、東大合格者は15人（現役7人）となつた。進路部長の児島修先生は「最後まで粘り強く努力した生徒たちときめ細かい指導をしてくださった先生方の努力の結晶」としている。



ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(81期)

波瀬 憲昭

令和6年1月の総会から同窓会長を仰せ付かっております81期波瀬憲昭です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

114期の父兄として学校に入りしたことがきっかけで、以降10年も関わりが続いております。(今年度の3年生は124期です)この間に強く感じることは「現役生はとてもきちんとしている」ということです。良く言えば「真面目」悪く言えば「おとなしい」という印象です。OBの皆様にお会いすると、自分の同級生たちが如何に「個性豊か」で「蛮カラ」だったか、ハチャメチャな現役時代を話題にしているご様子をお見掛けします。(もしかしたら、ご自分の武勇伝を他人にすり替えておられるかも知れませんが)私の頃も「カット」を利用して「天華堂」や「コンパル」で長時間居座った挙げ句追い出されたことや、休み時間ごとに水泳部員を

脅かしてプールを開けさせて飛び込み、ビショビショのまま授業を受けていた(当時はクーラーが無かった)ことなど、同期が集まるとそんな昔話が尽きません。

学校には今も昔も「校則」があります。私たちが勝手に「拡大解釈」していたのに比べ、今の子は厳格に守ろうとしているように見えます。正しい事なのですが、逞しさや男らしさが育つか、心配になることがあります。私の立場上「ヤンチャ」を奨励するわけにはいきませんが、良い意味で「伝統的な高高らしさ」が受け継がれていくことを望んでいます。

皆様、是非母校に足をお運びください。中庭や護国神社の土手にも行ってみてください。ご自身が「乗附の山猿」だった頃の記憶が蘇る瞬間を、必ず、お約束いたします。



高崎高等学校校長(85期)

佐鳥 秋彦

同窓会の皆様には、平素より本校の教育活動の充実・発展に、ご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。昨年度末の人事異動により太田女子高校より着任いたしました佐鳥と申します。昭和61年卒業の85期になります。母校に校長として赴任したことを嬉しく思うと同時に、トップ校の重責を日々感じながら、毎日を緊張して過ごしております。

さて、今更申し上げるまでもありませんが、高高には翠巒祭と定期戦の二大行事があります。今年、翠巒祭は5年ぶりに入場制限なしの完全開催とし、大勢のお客様にご来場いただきました。300人からなる実行委員を中心に、アーチや壁画などの大作を見事に完成させました。また、売店における商品購入時のアプリの開発や、自転車置き場を利用した休憩所の設置など、昨年度課題として挙げられていた事案を解決す

る素晴らしい取り組みも見られました。

定期戦については7月の競技大会で選手選考を終え、本番を待っているところです。長い歴史をもつ定期戦ですが、記念誌を見ると前高の先生が次のようなお話しをされていました。「高高が会場の時に前高生が荒れて、控室の壁の羽目板を割ったことがあった。この時、職員は校長以下全員が頭を下げて帰った。翌年、前高が会場で戦々恐々としながら当日を迎えた時、高高生は控室を綺麗に掃除をして帰った。そして黒板に『来たときよりも美しく』と書いてあった。その時に心憎いライバルだなという意識が芽生えたね。」まさに3F精神を体現したエピソードです。本校ではこれからもこのような生徒たちを育てていきたいと考えています。同窓会の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願い致します。

縁あって、今

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

上席研究員

廣木 章博



縁あって、同窓会報の「潮流」の執筆依頼をいたしました。高高時代、大して勉強もせず、放課後はもっぱら当時流行のビリヤードに励み、さらにはバンド活動を行ったりもしていたので、成績は右肩下がり、苦手な英語では赤点をとることさえあった。そんな不出来で、特に目立つこともない生徒であった自分が、由緒ある同窓会誌の記事を書くことになろうとは。縁とは実に不思議なものである。

英語が大の苦手で化学が好きだった私は、当時、大学入試センター試験後の二次試験科目に英語がないことを理由に、群馬大学工学部応用化学・材料工学科を受験した。正直、浪人することを覚悟していたが、入学することができたのは幸いであった。大学に入学した1991年頃は、トレンディードラマが全盛期。テレビドラマに登場するお気楽大学生のように、学業はそこそこに、テニスサークルやアルバイト、趣味のドライブなど学外活動に精を出していた。そんな学生生活は、学部3年の冬、卒業研究の配属先が決まって一変した。卒業研究が始まると、アルバイトを辞め、毎日、朝から晩まで配属先の研究室で過ごした。今で言うブラックな環境だったかもしれないが、当時はそんなことは微塵も思わず、ただ実験に夢中になった。研究室の教授や先輩方から指導・助言をいただきながら、試行錯誤して目的のペプチド(複数のアミノ酸が連なった化合物)を合成できたときの達成感が実に心地よかった。

研究者になりたいと思い群大大学院に進学した私は、指導教官の片貝教授が、独立行政法人日本原子力研究所(原研)高崎研究所(県立公園「群馬の森」のすぐ北側にある研究機関。法人改革などにより、現在は、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(QST)高崎量子技術基盤研究所となっている。)の吉田先生と共同研究を行って

いた縁で、原研高崎研の実習生となり、放射線を利用したアミノ酸含有ゲル材料(ある温度を境に、低温側では水を吸収して大きく膨らみ、高温側では水を吐き出し小さくなるゲル)の合成とその応用をテーマに博士号取得を目指して研究を行った。原研高崎研には、企業からの研究者や私のような大学院生も在籍していたので、群大の研究室では経験できない彼らとの交流は、大変刺激になった。

博士論文の完成がようやく見えてきた2000年の冬、ゲル合成における放射線化学反応の初期過程の計測でお世話になっていた東京大学の先生から、米国の知人が博士研究員(ポストドク)を探しているのだが、どうか?とお話しをいただいた。英語が不得手、海外渡航経験もなかっただため不安があったが、見聞を広げるにはいい機会と思い、思い切って渡米することを決意した。勤務先となったNotre Dame Radiation Laboratory(シカゴから100マイルほど東にあるノートルダム大学のキャンパス内にある米国エネルギー省管轄の研究所)では、金属酸化物存在下での水の放射線化学反応に関する研究に取り組んだ。研究所には、カナダ、ドイツ、フランス、チェコ、クロアチア、中国、インドなど実に様々な国出身のポストドクが在籍していた。科学という共通言語での議論では決して「国」を意識することはないが、彼らと過ごす日常、食事や習慣などの端々で、それぞれのアイデンティティを感じ、世界には実際に様々な文化・考え方があるものと感心した。恥ずかしながら、彼らと過ごして初めて、自分のルーツである「日本」という国、民族を意識した。日本の歴史や伝統をあらためて調べ、下手な英語で彼らに説明したのは、良い思い出である。余談になるが、日本人のほとんどいないノートルダム大学で、偶然にも前橋高校出身の先生と知り合い、イン

ディアナ州からカリフォルニア州のサンフランシスコまで5日間かけてドライブしたのも、米国生活での忘れられない思い出である。2,400マイルに及ぶ道中、映画に出てくるような地平線に向かって真っ直ぐ延びる道を、ひた走った時は実に心が躍った。米国大陸の広大さを実感し、且つ真っ白な塩の平原やヨセミテ渓谷など雄大な自然と出会うことができた生涯最高のドライブであった。



サンフランシスコへ続く道

英語での生活にも慣れ、2年近くが過ぎた頃、古巣の吉田先生からポスドクを探しているので、戻ってこないか?と声をかけていただいた。米国での研究生活は、名残惜しかったが、2003年の春に帰国。決意も新たに、放射線を利用した環境・人に優しいモノ作りに関する研究をスタートさせた。そして帰国から3年後、同研究所の職員として採用され、今に至る。この間、大学や企業などの多くの研究者と出会い、お世話になりながら、燃料電池や次世代二次電池の重要な部材でプラス極とマイナス極を隔てる膜材料(高分子電解質膜)、放射線がん治療における放射線を見る化する材料(ポリマーゲル線量計)、環境への負荷が少なく人にも優しい多糖類を用いた医用材料(ソフトコンタクトレンズ)などの研究開発を行ってきた。そんな中、縁あって、2020年4月からの4年間、高高的スーパサイエンスハイスクール(SSH)事業の運営指導委員を務めさせていただいた。

現在のSSH事業(第IV期:2021-2025年度)では、「知の活用」「知の深化」「知の交流」を掲げ、先生方が苦労して作られている独自のクロスカリキュラム授業(異分野の融合した授業;例えば、化学×地理)の実施やOBと連携した活動などを通じて、生徒達の資質・能力向上が図られている。SSH事業に取り組む先生方の努力は並々ならぬものがあり、その熱意が生徒に伝わり、生徒は期待に応えて成長、生徒の成長に先生方は喜びを感じ、より良い指導をしようと更に工夫を凝らす。また、生徒の課題研究においても、生徒間、時に上級生が下級生に対して助言する場が

設けられており、すべてが非常に良い形に循環しているよう感じられた。これら一連の活動を通して、質の高い課題研究が自発的・継続的に生じる高高的「学びの生態系」が醸成されつつある。高高的新たな伝統として引き継がれて行くことを期待している。

このSSH事業を更に発展させ、日本の将来を担う科学者等の人材育成を促進するために、私の勤務するQST高崎研と高高は、今年4月に連携協力協定を締結した。QST高崎研では、これまでOB訪問で生徒の受け入れなどを行ってきたが、現在は、生徒らの課題研究に対して、研究者・技術者をメンターとして定期的に派遣するなど、科学教育の更なる充実に貢献している。QST高崎研が12月上旬に開催する「QST高崎サイエンスフェスタ」(開催場所:高崎シティギャラリー。入場無料)では、最新の量子科学技術に関する研究発表に加え、高高生らの研究課題発表も予定されているので、現役高高生の勇姿を見るために、是非会場に足をお運びいただければ幸いである。

今回この執筆を機に、研究者としての歩みを振り返ってみたが、研究に取り組む姿勢や研究に対する考え方を教えていただいた大学時代の恩師をはじめ、時に叱咤激励してくれた先輩、苦労や喜びを分かち合った友人らとの縁・出会いがあったからこそ、今の自分があるとあらためて思った。多くの良き縁に恵まれ、おかげでここまで来ることができた。これまでに出会ったすべての人に感謝である。広大な米国大陸をドライブした時、地平線の先にどんな景色が広がっているのかとワクワクしたが、これは人生も同じであろう。この先どんな縁があり、どんな世界に辿り着くのか、楽しみである。



同僚とホームパーティー



私の仕事

69期

高高山岳部に感謝!!

日本歯科医師会 会長

高橋 英登

自分は仕事人間である。仕事(診療)が大好き。歯科医になって約50年。いまだに仕事をしている時が一番幸せである。一番心豊かにすごせる時間である。朝起きて生活習慣である緑茶を飲みながら「今日も仕事ができる! 幸せだなあ…」と思う。大学病院に勤務していた時代から開業して50年、殆ど病欠はゼロ! これも好きな仕事をしているからストレスがかかるない事が主因であると思っている。病の主な原因是ストレスだから…。にわかに信じられない事かもしれないが、朝8時30分から大学病院で勤務し、臨床をやり、学生教育をやり、講義をやり、研究(主に歯科用接着剤などの材料開発研究)をやって17時にタイムカードを押し、西武新宿線に乗って杉並にある診療室に行き、18時から深夜の2時まで(本当ですよ!)患者さんを診て、その後技工物(入れ歯やかぶせ物の金属冠やブリッジなど)自分で作り、明け方に自宅に戻る。週2回ぐらいは診療したあと医局に戻って研究や後輩の論文作成を指導し、ちょっと寝てまた大学へ行き…と同じことを繰り返す日々を25年間送っていた。よく死ななかつたなあ…と今思い返してみるとあの頃の壮絶な生活がなつかしく思い返される。

歯科医としての仕事は超精緻な職人技とも言える手作業! 頭脳を使うことなど殆んどない(?)そして、1例たりとも同じ症例はなく、全てカスタムメイド。口の中の状態も全て異なり歯の形も硬さも色も生え方もかみ合わせも全く違い、同じケースは皆無。そして、難しければ難しいほどやりがいを感じ、また上手くいった時の達成感も抜群である! 人間相手の仕事ゆえ全ての人間が異なる人間性を持っているのだからそれもしかりである。

医者と歯医者の何が一番異なるのかと言えば、医者は疾病に立ち向かうが障害には立ち向かうことは殆どないというこ

とだ。『障害』ちょっときつい言い方ではあるが失って回復することのない状態が障害。例えば手を失ったら義手、足を失ったら義足、眼を喪失したら義眼。でも医者はこれらに立ち向かうことはない。歯科医は歯を失った人に義歯を入れて食べることができるようする技を持っている。全部で28本ある自分の歯を失ってしまったなら何も食べられない、満足にしゃべれない、笑顔もなくなる! 無歯顎(歯が1本もないこと)のおばあちゃんに難しくて大変な作業だけど総入れ歯を入れて、おばあちゃんがにっこり笑って「先生! お寿司やさんでアワビのお寿司食べてきたわよ」と言わされたら天にも昇るくらい嬉しい! だって、入れ歯を入れなかつたら何も食べれなかつたのに…と歯医者冥利に尽きる瞬間である。

私は歯科補綴学(しかほてつがく)が専門である。大学を卒業して残った医局が補綴学講座であった故、補綴。すなわち歯を失った所に入れ歯や最近ではインプラントなども出てきたが何しろその歯の無いところに歯を人工的に再生させることができ専門なのである。もちろん入れ歯だけでなく歯が欠けたところにかぶせ物をしたり両脇の歯を使って欠損部を回復するブリッジも専門領域である。

人は自分の口の中に髪の毛が1本入っていても異物として感じる。ということは20ミクロンぐらいのサイズの物体を感じ事ができるほどのものすごい精緻な感覚を持つ器官が『口腔』である。それ故にかみ合わせの調整の微妙さなど本当に超超超精密作業である。そしてただ上下に咬む時の調整にとどまらず顎は上下左右前後に動くわけで全ての顎の運動経路に対し違和感のないようにするかみ合わせの調整など本当に『神わざ』である。故にどんなにロボット技術が進もうとAIが進展しようとこの人間の複雑怪奇とも言える顎の動きに

対応できるかみ合わせの調整は歯医者にしかできない神わざである。

私は今73歳!今でも歯科医師会の仕事(国民のために優良な歯科医療ができるように国と折衝することなど)がない時は極力診療するよう最大限の努力を払って患者を診るようにしている。なぜなら診療が趣味だから。歯科医師会の会務が立て込んで診療日が少なくなってしまう時などは1日15時間、朝から深夜まで昼夜しなんか食う暇もなくずっと診療をこなす日々である。でも診療することが大好きだから意外と疲れず充実した1日を過ごすことができる。最後の患者さんを診終わった時の充実感は格別である。

私には子供が4人(男女2人ずつ)いる。しかし誰も歯科医にはならなかった。自分の親も歯科医ではない。親の後を継ぐことなく自分勝手な道に進んだ!故に子供たちにも「歯科医になれ!」と一言も言ったことはなかった。結果的に皆、自分勝手な道に進んだ!これでいいと思う。自分には後継ぎがない。これもこの年になっても衰える事なく診療室をやってられる要因だと最近思っている。「後継ぎがないのだから俺が頑張って診療室を運営し、スタッフの給料を俺が稼がねば!」と頼る息子のいないつらさを感じつつも必死でやれることに繋がっているのだろう。

開業して45年。45年前に50歳で診始めた患者さんは95歳になってきた。私の心情として「自分の患者さんは最期の日を迎えるまで自分で診る!」のである。絶対に「今日で終わりです。また何かあったらいらっしゃい」という言葉は吐かない。「ばあちゃん!人生最期の日まで自分の口で美味しく食べられるようにしてやっからな」が口ぐせである。

人によってデンタルIQも違うのでリコール間隔は多少異なるが、だいたい1~3か月に1回くらい定期的にずっと診る事を開業以来継続している。故に40年以上、親子のように、兄弟のように、恋人(?)のようにお付き合いしている患者さんばかりになってきた感が否めない。「みんなジジイ、ババアになって来たなあ!」と言ったら「先生もな」と返事が返ってくる。だから毎日親しい患者さんとバカ話をしながら楽しい日々を過ごしているんだなあと幸福感でいっぱいの診療室である。ストレスがかからないわけである。

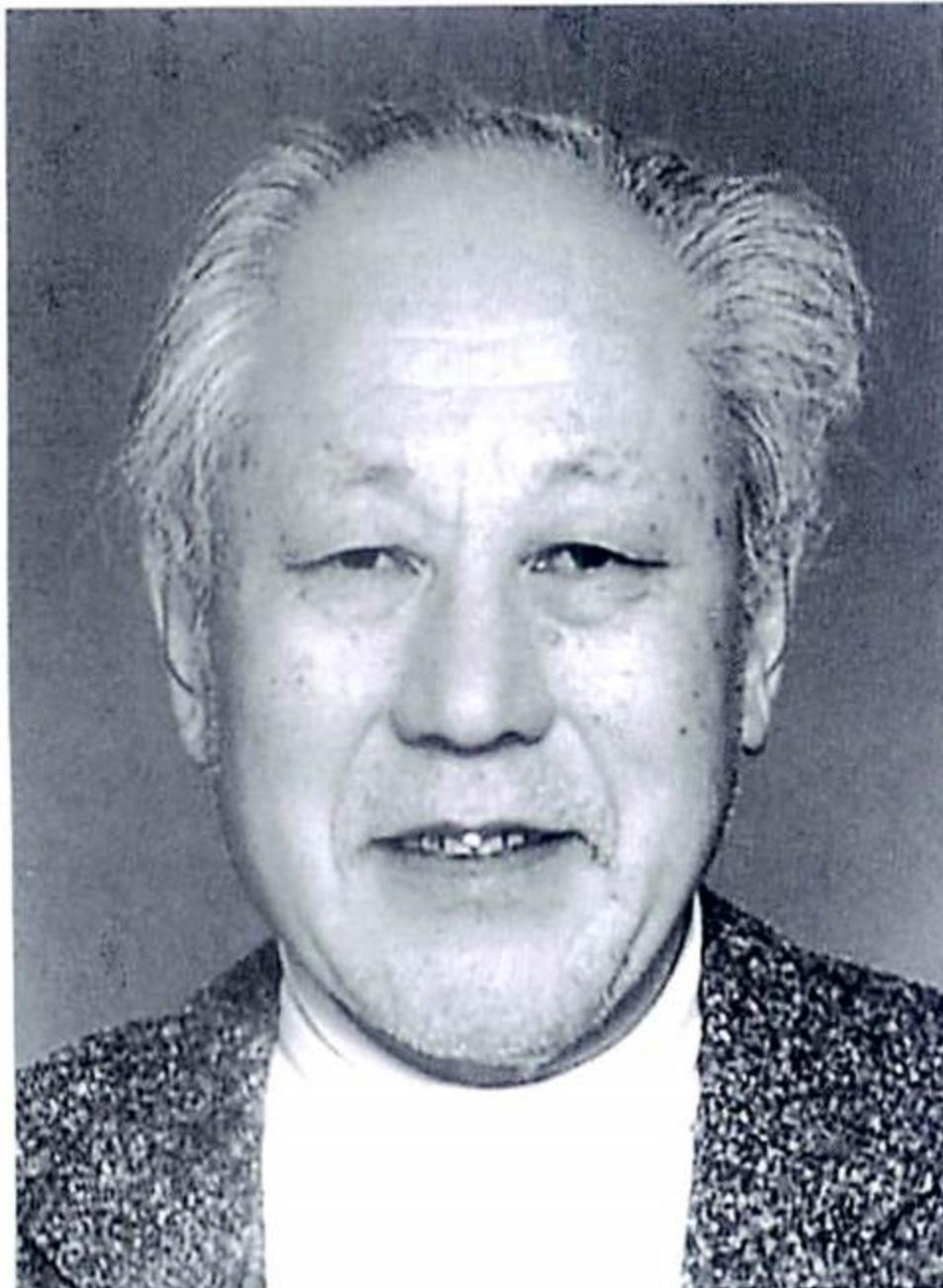
さて、最近ふとなんで俺はこんなに元気で仕事ができて毎日楽しい日々を過ごせているんだろうなあと思い返してみると『体』が丈夫だからなんだ!と思う。何をするにも『体』が資本、『体』がへたっていたのでは良い仕事が出来るわけがない。その『体』の基礎を作ってくれたのが高橋信男先生率いる高

高山岳部である。小・中と虚弱体質で、病気ばかりしていて、クロマイがなかつたら死んでたかもしれない自分がなぜか…今思い返してもなぜかわからないけど高高山岳部の部室のドアを叩いたのだ。

重い40mのザイル(あの当時はまだ麻だった)を背負わされ、長いこと走られ、崖っぷちでジッヘル(滑落停止)の訓練で飛び降りる先輩を途中で止めることができず陽が落ちても「止められるまでやるんだ!」と涙した事を思い出す。あの頃は今と違って装備が重く入山時40kg!よくあんな虚弱な自分が耐えられたなあと今でも不思議である。でも3年終了まで辞めずに耐えた!そして大学でも殆んど勉強なんかせずに山登りに没頭!高高山岳部で鍛えられた『体』は今でも日々の仕事に耐えている。高高山岳部に感謝!!天国の信さんに感謝である。



高高山岳部春合宿(早春の谷川連峰・白毛門岳にて)



週刊誌の漢字クイズ

産婦人科医 豊泉クリニック理事長

豊泉 清

私の趣味は週刊誌の漢字クイズである。一筋縄では解けない難問が多いから、たかが週刊誌のクイズ…とは侮れない。高齢になっても漢字が満足に読めないから、高校時代の国語の授業では一体何を学んでいたのだろうか…という疑問が生じる。

高校時代に国語の授業を面白いと感じさせる教師は皆無だったから、自発的に興味を抱いて国語を学習したいという知的好奇心も湧かなかった。週刊誌の漢字クイズも満足に解けないから、私は拙劣な高校の国語の授業の犠牲者と断言しても差し障りない。もし生徒に伸びる芽があると仮定すれば、国語教師によって芽を摘み取られたと結論できる。高校の国語教師は、漢字の読み書きも満足にできない生徒を大量に社会に送り出していた元凶という結論も導ける。もし文筆を生業(なりわい)とする人物が、高崎高校の卒業生の中にいるとすれば、私の主張に対してどんな批判や反論が飛び出すだろうか。

では以下の段落で、週刊誌で目にしたクイズをいくつか披露してみよう。

◆仮名五文字で訓読みせよというクイズがある週刊誌に載っていた。

志(ころろざし) 詔(みことのり) 政(まつりごと) 釉(うわぐすり)
裘(かわごろも) 韋(なめしがわ) 鏑(みなごろし) 肋(あばらぼね)
掌(たなごころ) 恣(ほしいま) 鰐(うきぶくろ) 謀(はかりごと)

志と政と謀の三文字しか読めなかった。裘、韋、恣、鑑、鰐などは、クイズに挑戦して初めて目にした漢字である。

◆別の週刊誌に、仮名四文字で読めというクイズが載っていた。

曙(あけぼの) 羹(あつもの) 鞍(あかぎれ) 頤(おとがい)
悌(おもかけ) 凤(おおとり) 嘴(くちばし) 鵠(かささぎ)
獮(かわうそ) 梯(かけはし) 簪(かんざし) 凱(かちどき)
傍(かたわら) 階(きざはし) 理(ことわり) 尸(しかばね)
魁(さきがけ) 檜(しがらみ) 殿(しんがり) 賜(たまもの)
酣(たけなわ) 兵(つわもの) 麽(たてがみ) 輩(ともがら)
鋸(のこぎり) 錢(はなむけ) 鶴(ひよどり) 薑(はじかみ)
藁(ひこばえ) 檻(ほばしら) 輛(ふんどし) 眇(まなじり)
蹠(みづかき) 銭(まさかり) 邪(よこしま) 禍(わざわい)

難読漢字の連続で完全にお手上げだった。

◆また別の週刊誌に仮名三字で読めというクイズが載っていた。

暇(いとま)	甍(いらか)	宴(うたげ)	桝(うだつ)	現(うつつ)
鞦(うっぽ)	梗(うるち)	縁(えにし)	簾(えびら)	囮(おとり)
臚(おぼろ)	鑑(かがみ)	踵(きびす)	楔(くさび)	件(くだり)
櫟(くぬぎ)	轡(くつわ)	蔀(しとみ)	僕(しもべ)	類(たぐい)
巷(ちまた)	番(つがい)	礫(つぶて)	帳(とばり)	齎(なづな)
啜(なわて)	聃(ねぐら)	俗(はざま)	瓢(ふくべ)	衾(ふすま)
籬(まがき)	斑(まだら)	霧(みぞれ)	葎(むぐら)	蛻(もぬけ)
鏹(やじり)	誼(よしみ)	齡(よわい)	轍(わだち)	蕨(わらび)
框(かまち)	厨(くりや)	鎧(あぶみ)	鼎(かなえ)	觴(ささら)

仮名三文字の訓読みも半分以上読めなかった。現(げん)、宴(えん)、番(ばん)、斑(はん)などの音読みは簡単だが、現(うつつ)、宴(うたけ)、番(つがい)、斑(まだら)という訓読みもある。漢字は音読みより訓読みの方が遙かに難しいと、私は感じている。

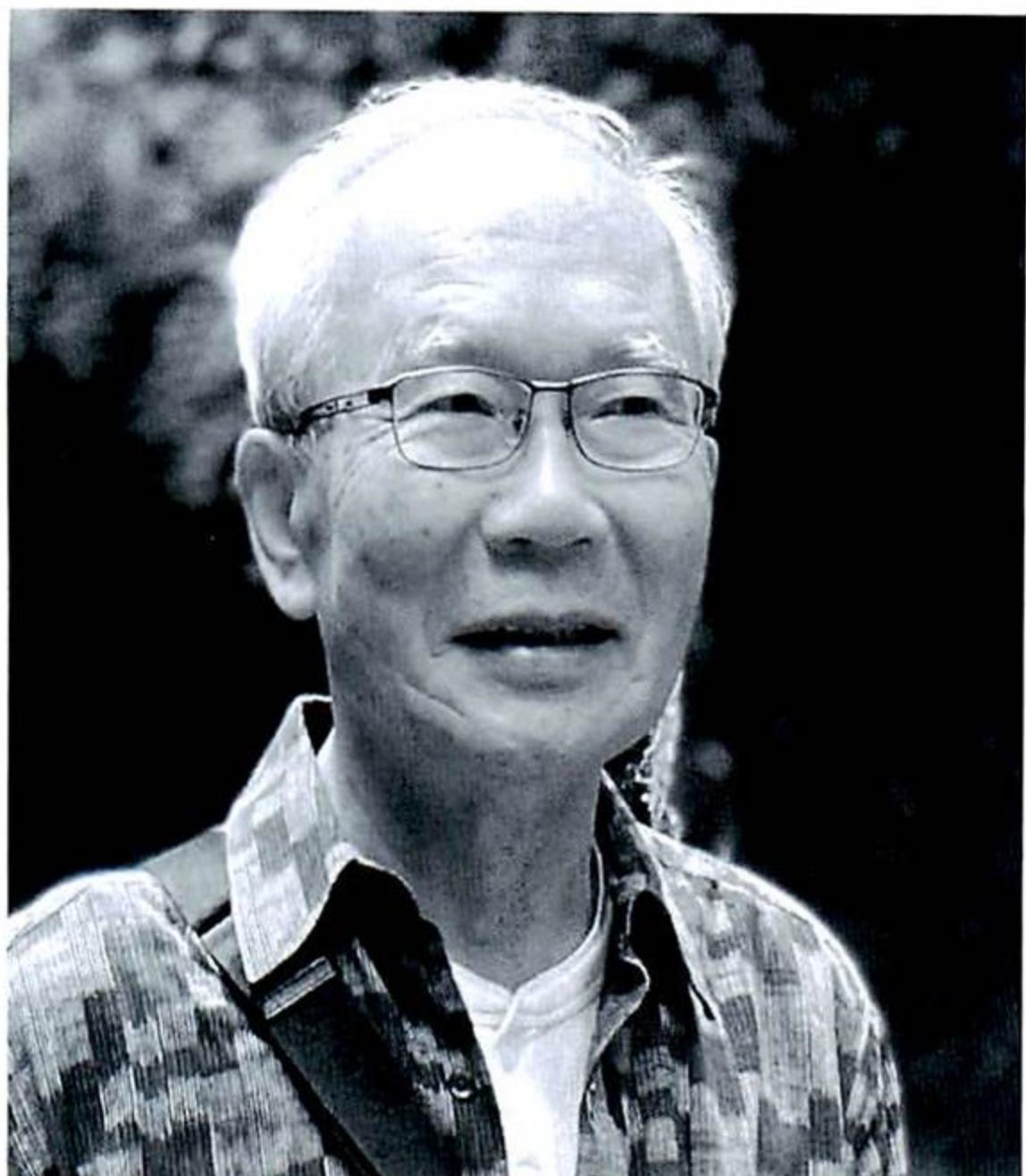
私は社会人になってから、独学で国語の勉強をゼロからやり直したお陰で、難読漢字も何とか人並み程度には読みこなせるようになった。ささやかな体験から「独学は善なり」と断言できる。

私どもは若い頃から、教師が問題を出し、生徒が正解を求めるという行為に慣らされている。そこで発想の転換を試み、仮名五文字や四文字のクイズを解いた後で、仮名一文字で読む漢字を自分で探してみたい。満を持(じ)す、烏有に帰(き)す、列強に伍(ご)す、興趣を殺(そ)ぐ、屁を放(こ)く、筆を執(と)る、髪を梳(す)く、繩を絹(な)う、酒を酌(く)む、狐が憑(つ)く、頭(ず)が高い、我(が)を通す、左(さ)の通りなど、仮名一文字読みの慣用表現が無数に存在するから、更にネタを集めて続編を綴ってみたい。

高齢になっても週刊誌の漢字クイズを楽しみながら大脳を刺激し、精神的な若さが維持できるのも、逆説的だが高校時代の国語のヘボ教師のお陰…と心の底から感謝している。最後にヘボ教師の指導を受けるのも不亦樂乎(またたのしからずや)という論語調の表現を利用して、駄文の結論を導いてみた。教師の指導を最善と評価する人から、「独学は善なり」という私の主張に対してどんな批判や反論が飛び出すだろうか。

寄 稿

65期



私のOB交流記

早稲田大学名誉教授

清水 敏

「黒潮会」のメンバー

2017年3月に定年退職し、昨年2月に後期高齢者の仲間入りをした。これを機に3月末、県労働委員会会長の職を辞し、全ての役職を離れた。そして、4月には、思いがけず叙勲の栄に浴した。

振り返ると、約30年にわたる東京での単身赴任生活のため、今更ながら群馬県についての知識が乏しいことに気がついた。そこでインターネットの情報等を頼りに、暇を見つけては各地に足を運び、県内各地の発展や変貌を見て歩く今日この頃である。また、最近は、市内のOBの方々との交流を通して文化面でも、生活面でも様々な恩恵を受けている。

他方で、気心の知れた首都圏在住のOBとのいくつかの交流がまだ続いている。その一つは、神楽坂のちゃんこ料理店「黒潮」にて二、三ヶ月に一度開かれる食事会であり、かれこれ10年以上続いている（通称「黒潮会」）。この会の世話役は、元熊谷組副社長の新井克人氏（65期）である。彼とは、高高時代に同じクラスであったのみならず、大学も、学部も同じであったため、長く親交を重ねている。特に、私の副総長時代には大学施設の建設及び改修にあたり大変お世話になった。

ところで、黒潮会のメンバーであるが、まず、真下昇（元日本ラグビーフットボール協会副会長・56期）及び荻田築（元タリーズコーヒージャパン社長・会長・62期）の両先輩、仙波憲一（元青山学院大学学長・68期）、丸山俊弘（トム・アンド・アソシエイツ代表・71期）、黒沢利彦（元クボタ取締役専務執行役員・73期）、高橋健二（元日本製鐵副社長・73期）、大塚光彦（ガイアート常勤監査役・84期）の各氏及び新井氏と私である。考えてみると、この会は不思議な集まりである。卒業年次も、職域も異にする面々がただ高高OBであるという一点で、長期にわたり交流を続けているからである。おそらく、

新井氏の人柄と関係していると思われるが、何の縛りもなく、忌憚のない会話を楽しめるからであろう。お酒も飲むが、総じてビールをジョッキで二、三杯程度で、極めて健康的な交流会である。話題は、高高生時代の思い出、職業上の経験談、ラグビー、さらには箱根駅伝等々、多岐に及ぶ。大学という狭い職域における経験しかない私にとっては、未知の情報に接することのできる貴重で、かつ楽しい場である。

また、最近、OBの歯科医お二人に大変お世話になったことを記しておきたい。私は、長年診療をお願いしてきた経緯から、今でも東京の医療機関に通っている。歯科医院も同様であり、かつての職場近くの医院で診ていただいているが、昨年の秋、この歯科医院の医師より当該医院では処置できない難しい手術が必要なので、近隣の大学病院へ行くように指示された。ちょうどその頃、たまたま出席した東京高高同窓会において日本歯科医師会会长の高橋英登氏（69期）にお会いし、実情をお話したところ、早速、日本歯科大学の里見貴史教授（生命歯学部主任教授 82期）を紹介していただいた。そして、昨年末、同教授の手術を受けることができ、おかげで何の支障もなく日常生活を送ることができている。お二人には、改めてこの場をお借りして厚く御礼を申し上げたい。

高高OBは実に多士済々、上記のように、私は、交流を通して県内外のOBの方々から多大の恩恵を受けている。このような交流は、言うまでもなく、同窓会組織なしには考えられない。高高同窓会が今後さらに発展することを願ってやまない。

〈付記〉真下昇氏は、2024年7月に著書『ラグビーと生きる』（創文企画）を出版された。



わが良き友よ

NIPPONアントレプレナー専門学校
副校長

佐藤 康彦

会報への執筆依頼を頂き、立派な経歴の同級生諸氏を差し置いて私のような者で良いのかと思ったが、高高時代の楽しい思い出を、ということなので駄文をご笑覧頂きたい。

下駄を鳴らして奴も来た。腰に手ぬぐいだってぶら下げてもみた。我々75期が入学した昭和48年当時の高高はバンカラ気風が残り、学生服の下はジーパン、下駄履きという独特的のファッションで、翠巒を横目に、肩で風切って和田橋を自転車で駆け抜けたものだ。

昭和47年に起きたあさま山荘事件以降、全国的に学生運動は下火になってきており、ウォーターゲート事件やロッキード事件が新聞紙上を賑わせていたが、私のようなん気な学生たちは、もっぱら拓郎、陽水、かぐや姫などのフォークソングを聴き、ラジオの深夜放送に夢中になり、少年チャンピオンのこまわり君の活躍に爆笑していた。学陽書房で文庫本コーナーを物色し、文学少年を気取ってもみたが、周りに女子高生がいないと、連れ立ってGOROの篠山紀信の激写シリーズのページをめくり鼻の穴をふくらませていた。

類は友を呼ぶ、というが、気のあう仲間はなんとなく集まつてくるものだ。私のまわりにもなんとなく音楽が好き、面白いことが好きなユニークなグループができた。

仲良く一緒に遊ぶようになったのが二中出身のT君とI君。二人とも兄姉があり、それぞれ東京の大学に進学していた。兄弟のいない私は彼らとの交友を通して、受験や、東京の大学生活などの情報を得ることができた。一緒にレコードを聴いたり、女子高の文化祭に出かけたりと遊んでばかりではあったが、通信添削のオリオンを教わり、添削のランキングに載りたいがためにゲーム感覚で競って課題にチャレンジしたのは学力向上に役立ったと思う。彼らはじめ、バレーボールの皇太子H君、陽水好きのかつての神童T君、ブラスバンドでギターも上手かったH君ら、ユニークな仲間達は、やがて3年1組、通称「私文クラス」に結集し、他の傑物諸氏を巻き込み、面白好きの梁山泊とでも言うか、その後今に続く75期の

濃い交友関係を構築していく。

部活はマンドリン部に入った。ギターとマンドリンなのでフォークソングでも演奏できるのか、と思ったら、古賀政男やクラシックの楽譜を渡されて面食らった。しかし、合奏する楽しさを知り、定期演奏会で群馬音楽センターの舞台で聴衆から万雷の拍手を頂くという貴重な経験をさせてもらった。その後、舞台とか音楽に携わる仕事に就くことになったのはこの原体験(勘違い)があったからだ。

五木寛之の「青春の門」に憧れて入った大学ではジャズを聴き、アングラ演劇や映画制作をかじった。卒業後、世界放浪に憧れ辿りついたニューヨークでMTVの勃興に刺激を受け、帰国後は音楽映像の世界に飛び込んだ。仕事は順調だったがバブルに翻弄され所属会社は二度も倒産の憂き目にあった。縁あってお誘い頂いた家電メーカーでは、放送と通信の融合という壮大なビジョンに挑んだが、米IT企業の技術発展のスピードに圧倒された。

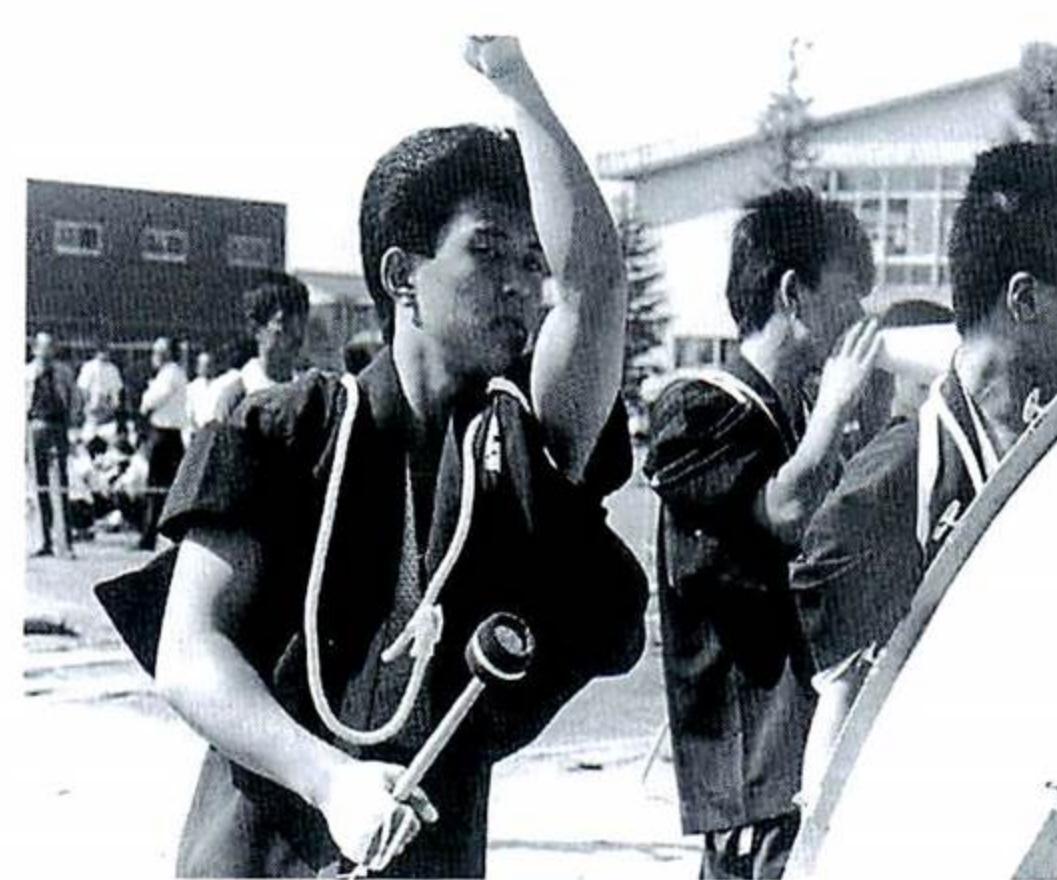
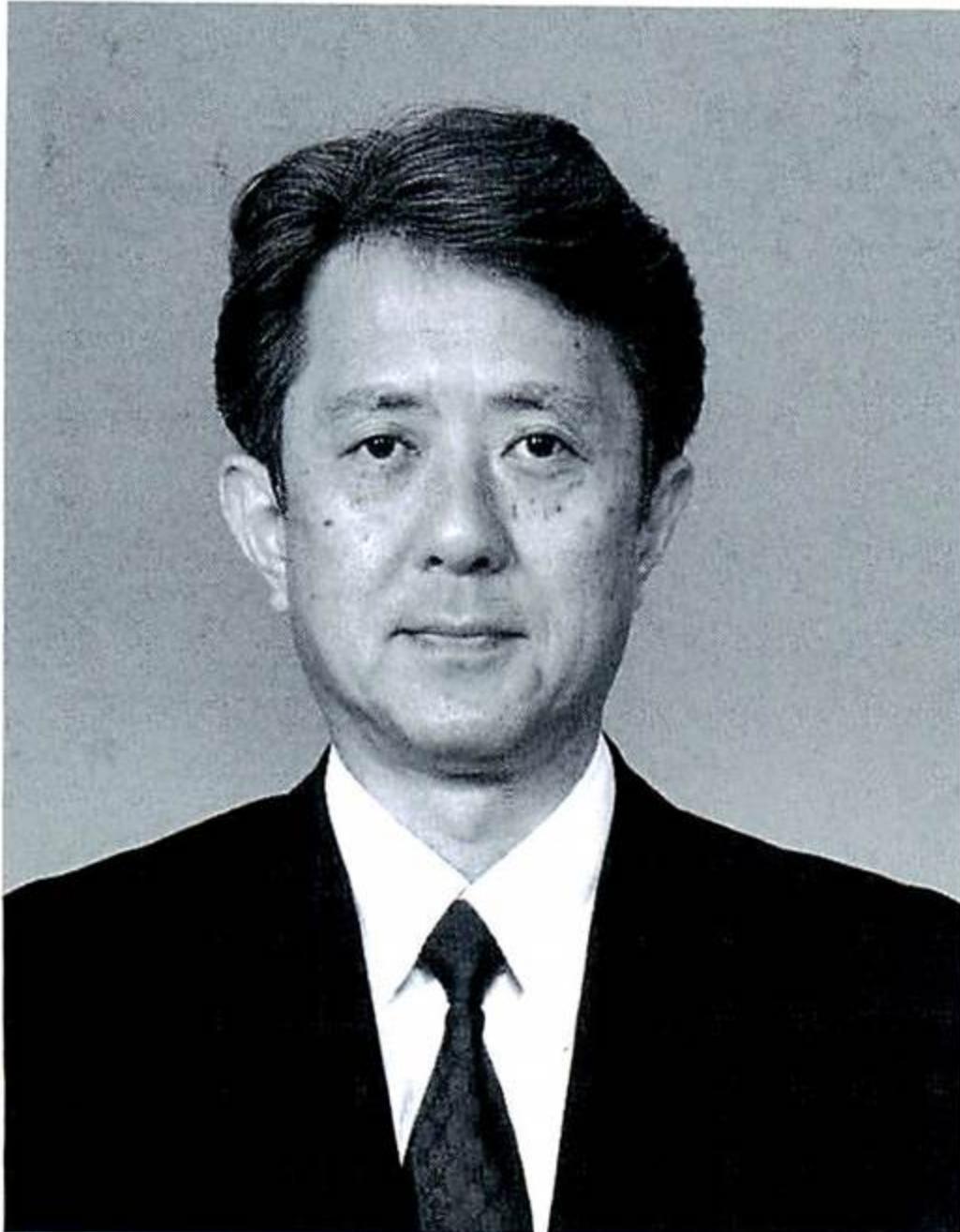
いろいろあったが、縁起だるまではないが、七転八起しつ今に至っている。

今も毎年マンドリン部の定期演奏会ではステージマネージャーとして、後輩達の青春の思い出作りの手助けをしている。今はマンドリンを弾くことはないが、数年前より、高高ブラスバンドOBが多いバンドでテナーサックスを持ち古いジャズを演奏している。ちなみにピアノは国語のT先生のご令嬢である。

75期の級友とは30歳代からずっと「翠巒コンペ」と勝手に名乗るゴルフコンペを年4回開催し、事務局役を仰せつかっている。今年の春にはなんと第133回目を迎える。高高3F精神を忘れずに、OBを打つたびに"Fore"を3回叫んでいる。健康で仲良く200回を迎えることを目標にしつつ、毎年同窓会の後には柳川町某所で「わが良き友よ」を皆で歌い、夢を抱えてあの頃に旅をしているのである。

寄稿

85期



出会い

安中市教育委員会 教育長

岩崎 聰

私が高崎高校に入学したのは昭和58年の春である。初代ぐんまちゃんが活躍した「あかぎ国体(58国体)」が開催された年で、珍しく定期戦を開催しなかった年である。今でこそ、定期戦の経験が1回少なかったのかと残念な気もするが、1年生で定期戦がどんなものかもわからなかつたので、当時はそれほど残念な思いはなかつたような気がする。

私の身内には高崎高校の卒業生がおらず、高高のことをあまり知らなかつたというか、勝手にみんな一生懸命に勉強している学校なのだろうと思っていた。それなので入学当初は、高高に入学したら部活には入らず、せっかく高高に入学できたのだから勉強をがんばろうという意気込みであった。しかし、その意気込みは入学後すぐに消えてしまった。何もせずに帰宅することに耐えられなくなり、まず、中学校の時に所属していた卓球部に行った。しかし、なんとなく馴染めず、入部しなかつた。次に、中学校の先輩に誘われ、合唱部へ見学に行った。人数が少なく、先輩がいたこと也有て逃げられずに入部した。それほど練習が多くなく、早めに部活が終わり、友達を待って一緒に帰る生活が始まった。一緒に帰っていたのは、応援部に入った友達だった。自然と応援部の先輩とも一緒に帰るようになつた。そしてついに、その先輩に誘われて応援部にも見学に行くことになつた。見学のはずだったが、机の上に置いてあった紙に名前を書かされた。めでたく応援部の私が誕生した瞬間であった。

前置きが長くなってしまったが、応援部に入ったことは私にとってとても大きな出会いであった。私を一回りも、二回りも成長させてくれたと感謝している。成長できたと思うこのまづ一つは、暑い中での野球部の応援やリーダー公開祭に向けた練習で、厳しい環境に耐えられるようになったということ

である。もう一つの成長は、いい意味で気持ちに遊びができて、心に余裕がもてるようになったことである。どちらの成長も、応援部で出会つた先輩や同級生とのつながりがあつたからこそ得られたことであり、私にとって大きな岐路であったと思っている。今でも当時の先輩や同級生とは連絡を取ることがあり、親しくさせてもらつてゐる。仕事の関係で一緒になる先輩もあり、たいへん心強い。

義務教育の教員として34年間勤め、その間、教育委員会などの行政の経験もさせてもらい、教頭や校長、教育事務所の所長も務めさせてもらった。管理職になるに従つて、責任も重くなり、校長の時はコロナ禍だったこともあり、種々の決断を強いられることが多かつた。教育委員会や仲間の校長に相談することもあつたが、孤独な職であると感じることも多かつた。そして今、81期の先輩である安中市の岩井市長に任命され、議会の承認も得て現職に就いてゐる。校長や所長という職を経験してきたが、現職ではそれ以上に責任を感じることは多い。頼もししい仲間に支えられているが、大きな決断をしなくてはいけないことを考えると、孤独であると感じることもある。それでも、これまでの仕事や今の仕事をやり遂げられているのは、精神的な強さや心の余裕がもてているからではないかと思う。応援部で培つたハートのおかげである。

応援部との出会いや、そこでの人との出会いがなければ、今の自分はなかつたと思う。入学当時に考えていたように一途に勉強していれば、また、違つた人生があつたのかもしれない。しかし、あの時、先輩が声をかけてくれて、紙に名前を書いて、今の自分がある。高高でのすべての出会いに感謝!



研究者であり、経営者である

株式会社リバネス
代表取締役社長CCO

井上 浄

学力のピークは中学生の時で、当時学区外から高高を受験しました。合格発表の日に父親と車で行って自分で見に行って、運転席で待つ父親にちょっと小声でカッコつけて「合格」、父親「よかったな」、普段ほとんど話さなかった2人の照れ臭さモード全開で、お互いもうちょい喜べよ!と思いつながらの静かな帰りのドライブでした。お祝いをねだる最大の機会を逃した反動から、大喜びしてくれた母親、じーちゃん、ばーちゃんに大いにねだった記憶が蘇ります。

高高での成績は、良く見積もって中の下。浄が大学合格するときはクラス全員が合格しているだろう、という担任からの浪人前提という称号を賜りました。おかげさまで無事に浪人生となり、バスケットボールコート完備、近隣にはゲームセンターという好条件の予備校の寮へ入り、しっかりと充実した浪人生生活を送ることができました。3年間の男子校生活に加え、もう1年、男子寮生活を満喫できました。その後、入学する大学が男子部・女子部と別々であったことも良い思い出であったと思いたい。

高校生生活では翠巒祭が最も思い出深く、体育館で行う紅白歌合戦のバックバンド、ライブでの演奏は30年経った今でも仲間たちと話題に上がるくらい印象的でした。男子校ならではの雰囲気と臭さ、年間で唯一女子高生が校内へ来てくれる期待と香り、バンドメンバーで遅くまで練習した日々は本当に楽しかった。学外でもバンド活動を行い、その仲間たちと大学までバンドを続け、社会人になり活動を辞めた後もメンバーの結婚式の度に一緒に曲を作り演奏できたのは、高高での出会いがきっかけでした。ここには書けないような、書いてはいけないような経験を共に過ごした仲間たちに感謝しかありません。

その後、大学で研究にどハマリしました。「世界初が、目の前で、自分の手で、証明できる。」こんなエキサイティングなこ

とが他にあるか、論文の海に飛び込んで、仮説を立てては実験して、本当に面白くてそのまま博士号までつっぱりしました。そんな中で芽生えたのが「世界一面白い研究所を創りたい」という想い。大学院生の時に仲間15人でリバネスを立ち上げました。祖業は「出前実験教室」で、研究の面白さを伝えていくこと。サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝えることで新しいことが起こることを実感しました。実験教室を受けた中高生は10年後に研究者になる、仲間になる、そんな仲間作りという意味合いも大きかったです。

博士号を取得した後、リバネスを続けながら大学教員として基礎研究や講義、実習などもやりました。サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝える、やり続けてきたことは大学の研究や学会発表の中でも大いに生きて、アカデミアでの基礎研究を進める仲間たちとの共同研究が進みました。またアカデミアから生まれる知識を社会に発信したり実装したり、リバネスだから出来ることも仲間たちと進めることができ、この両輪がものすごい駆動力となりました。ただ、どっちも調子悪い時は、本当にキツかったぜ。

アカデミアでのキャリアを積みながら、リバネスでは「テックプランター」という研究成果を社会実装するプラットフォーム、ひいては科学技術で世の中の課題を解決する場を2014年から日本とシンガポールでスタートしました。2021年には念願であった「ぐんまテックプランター」をスタートすることができ、地元群馬から世界を変えるベンチャーを生み出します。この活動の中で、高高の先輩や同期、後輩のみなさんと出会い、多くの協力を得て地元での活動が進んでいること、親父の足跡がそこら中にあってこれが燃料になっていること、群馬での繋がりに運命を感じます。

研究者であり、経営者である。その土台になった高高生活と繋がりに感謝です!

事業 報告

「先輩、教えてください！」

在校生が県内の同窓生の皆様の職場にうかがい、職業に関する体験をさせていただく進路学習事業が、6年前より始まりました。この事業は、在校生が講義や見学、実習を体験することで進路意識を高め、彼らが将来社会に貢献できる人材となることを促す企画です。今年度も、生徒たちが事前に作成した「ビジネスプラン」について、訪問当日に同窓生の方々からご指導いただくという試みを行いました。様々にご指導くださった同窓生の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

なお、今年度は7月3日(水)に実施され、当日は本校2年生約280名が37箇所の職場を訪問しました。今回受け入れてくださった3事業所の同窓生の所感をご紹介します。

行政・法律

弁護士法人 龍馬ぐんま事務所

「裁判傍聴から社会問題を垣間見る」

弁護士 弁護士法人龍馬役員 金井 健(101期)

今年は、刑事裁判の傍聴を中心に、その後は、事務所にて社会問題、弁護士業務の現在、未来といった幅広いテーマで議論をすることができた。

傍聴した裁判は、技能実習生として来日した外国人のオーバーステイの罪(出入国管理及び難民認定法違反)を問うもので、1回の期日(1時間程度)で結審し、判決まで至るものであった。それは、高校生からみてやや“殺風景”な印象をもつたようだ。また、裁判の内容からは、“技能実習生制度問題”や“移民問題”といった現代社会の社会問題が垣間見える内容であったため、事務所に戻った後、裁判手続のほかにこれらの社会問題を交えてお話をさせていただいた。

裁判業務を扱う弁護士にとっては見慣れた風景だが、高校生にとっては普段の生活では見聞きすることのない“裁判という日常”を感じることのできる良い機会となつたはずだ。



建設コンサルタント

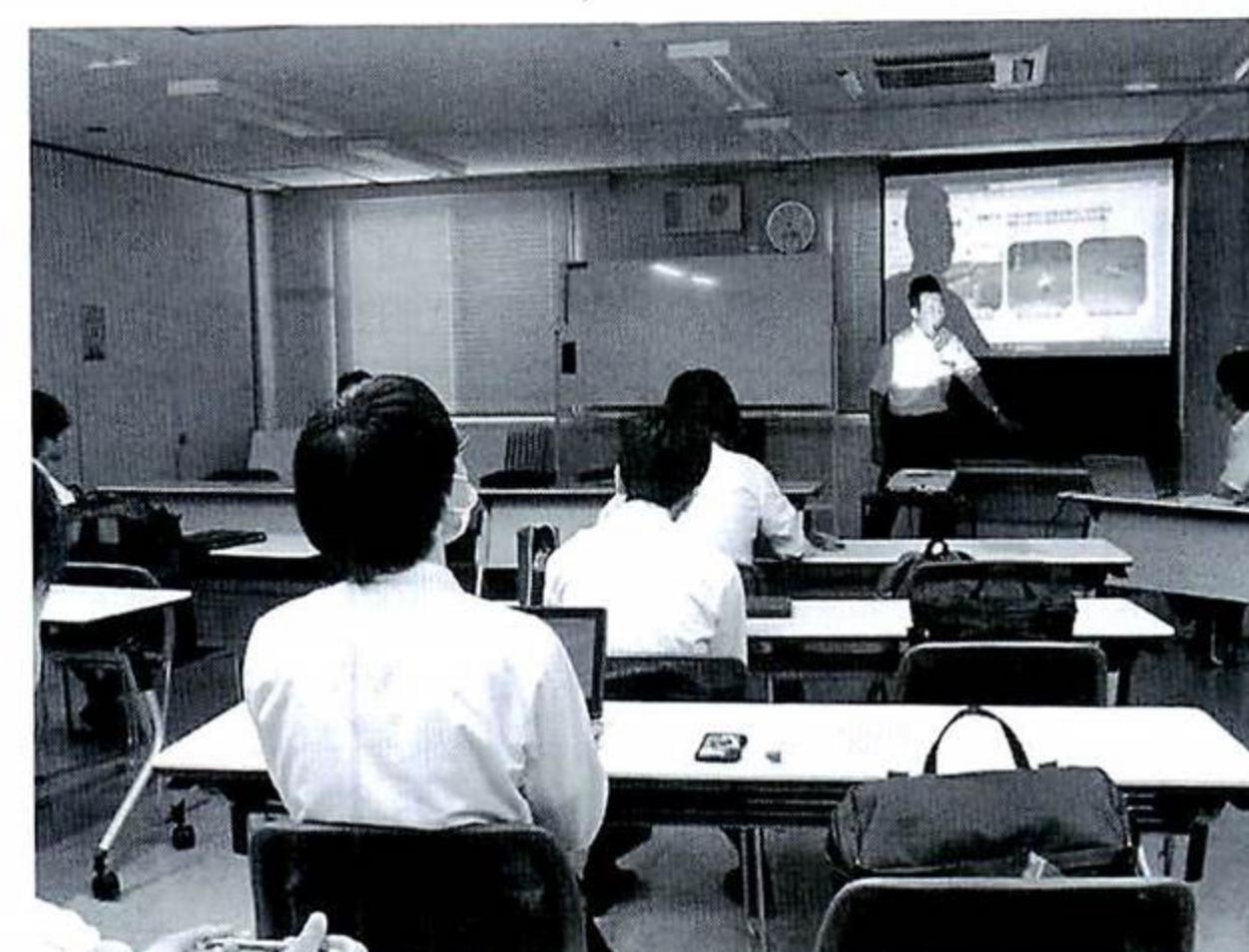
株式会社 富永調査事務所

「改めて認識」

代表取締役 富永 伸樹(78期)

当社は「建設コンサルタント」業で、実際に現地に道路や橋梁を作る建設業のように、一般の方が目にする機会が少なく、あまり知られていない業界ですが、道路、上下水道、公園などの公共インフラ整備の最初の仕事であり、このような会社で学習・体験をして知つてもらえたことは、大変ありがたいことです。

事前に頂いたビジネスプランを見た時は「突拍子もない」と感じていましたが、実際に生徒のプレゼンを聞いて、さすが高高生、違う角度から物を見ないと新しい物はうまれないなあと、改めて認識させられました。



教育・福祉

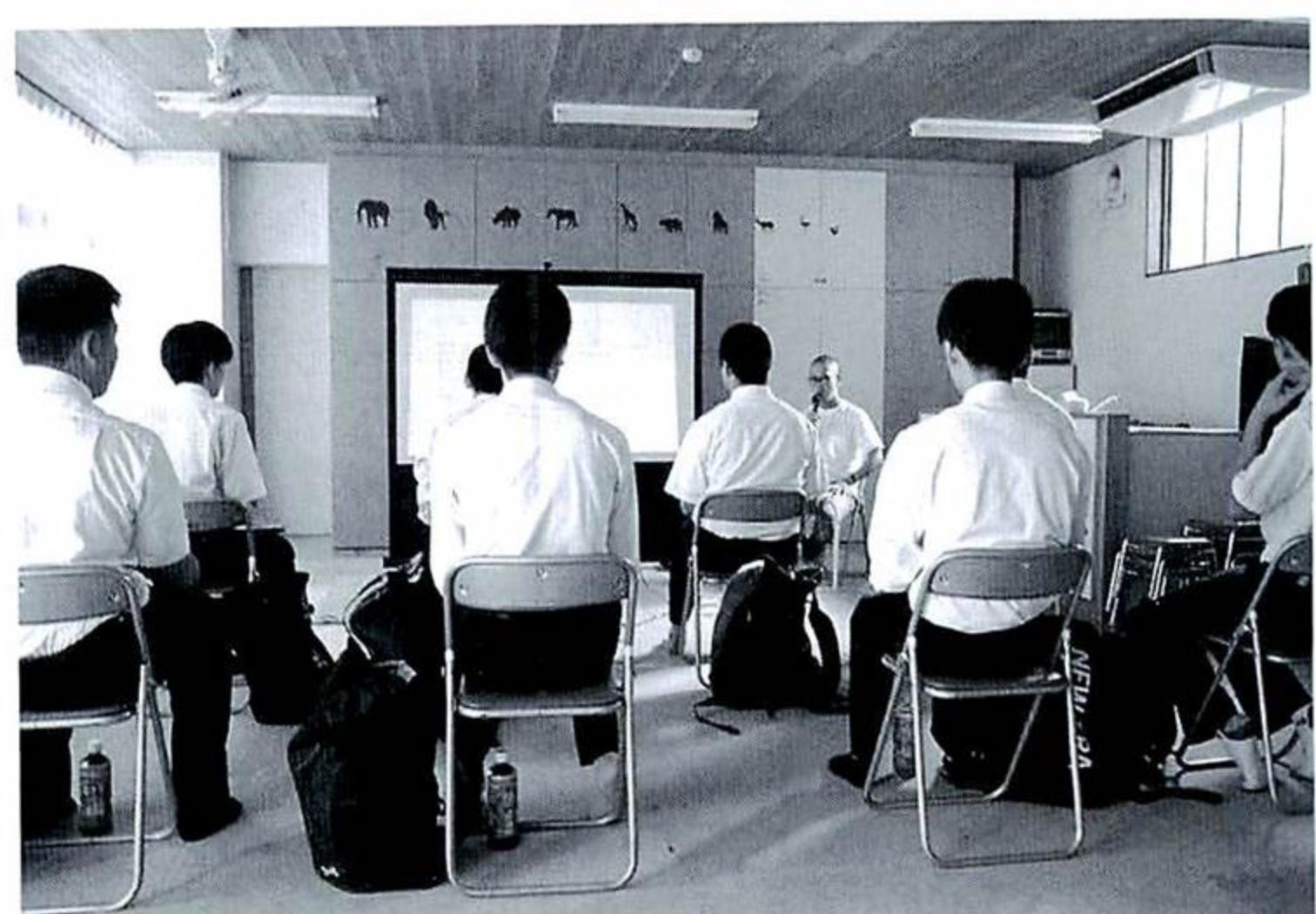
慈光こども園

「いつか同じステージで名刺交換を！」

社会福祉法人すずの会 理事長 松岡 法之(100期)

認定こども園と保育所の二つの園を運営している立場から、これから未来を創っていく学生達に微力ながらエールを送らせて頂いています。

私のところに来て頂いたのは今年で3回目。毎回「どんな学生に会えるのか」と不安の中で当日を迎えますが、やはりそこは流石の高高生！私の話を真剣に聞き取り、柔軟に自らの糧にしようとする姿に私の方が勇気を貰っています。学生の皆さんといつか同じステージで名刺交換ができたら最高ですね。



母校だより

6月1日(土)・2日(日) 第72回 翠巒祭 テーマ「CON-TRUST」



フォトモザイク(モネ「散歩、日傘をさす女性」)

巨大壁画(タージマハル)

校内の様子

市内宣伝
(出発式)

アーチ(西洋の城)

第72回の翠巒祭は、挑戦の連続でした。5年ぶりの無制限開催が決定し、喜ぶのも束の間、考えなければならないことは膨大でした。過去2年、自分たちの経験のない混雑の緩和策、熱中症の予防策、人員不足の解決策、そして「100%晴れる」と言われた翠巒祭での初めての雨天への対応策。無制限開催になってより多くの方にご来場いただけても、そのために一人ひとりの満足度が下がってしまっては意味がありません。各チー

フや先生方とともに一生懸命考えた対策が、ご来場の皆さまの「楽しい」の気持ちに少しでもつながっていたら幸いです。

翠巒祭の成功に向けて全力で頑張ってくれた副実行委員長、チーフ陣をはじめとする実行委員のみんな、すべての高高生、先生方、保護者、卒業生の皆さん、そしてご来場のすべての皆さんに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

実行委員長 3年 常見 健太

■活躍部活動紹介

運動部

- 【バレーボール部】令和6年度全国高等学校総合体育大会バレーボール競技 出場
- 【陸上部】令和6年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 5000m 競歩 出場 深野 陽光
- 【ソフトテニス部】令和6年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会 出場
大河原 兜・茂木 俊樹ペア 片貝 匠・田村 真人ペア
- 【通信制 陸上競技部】令和6年度全国高等学校定時制通信制体育大会 100m走 出場 中島 紗佑
- 【通信制 卓球部】令和6年度全国高等学校定時制通信制体育大会 100m走 4×100mR 出場 高桑 明日香
令和6年度全国高等学校定時制通信制体育大会 男子個人戦 出場 佐藤 駿旺

学芸部

- 【物理部】
[令和6年3月]・「中高生情報学コンテスト（情報処理学会全国大会併催）」中高生研究賞奨励賞・初等中等教育委員会委員長賞（全国4位相当）中高生研究賞奨励賞3件 入選2件
・「STEAM JAPAN AWARD」bronze賞（全国3位相当）
・「ロボカップジュニア・ジャパンオープン」World League レスキューイメージ 全国7位
World League サッカー Light Weight 全国出場
- [令和6年4月以降]・「世界青少年発明工夫展」銀賞
・「ぐんまプログラミングアワード」※全国から大学生まで出場可能 IoT部門・優勝 アプリ部門・優勝
・「Q1～U-18が未来を変える★研究発表SHOW」最優秀イノベーター（最高賞）
・「教育AIサミット「AI×教育」アイデアオーディション」グランプリ（最高賞）
- 【SSH部】
[令和6年3月]・「科学の甲子園全国大会」群馬県代表として出場
[令和6年4月以降]・「アジア物理オリンピック」銅メダル・文部科学大臣特別賞 坂本 聖
・「ヨーロッパ物理オリンピック」銅メダル 坂本 聖
・「坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト」優良入賞1件 入賞1件 佳作2件 奨励賞1件
- 【将棋部】
第37回全国高等学校将棋竜王戦 決勝トーナメント2回戦敗退 変則（ベスト13）矢内 悠翔
- 【マンドリン部】
第48回全国高等学校総合文化祭将棋兼第60回全国高等学校将棋選手権大会 出場 矢内 悠翔
- 【文芸部】
令和6年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール 優秀賞
- 【競技かるた部】
第48回全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門 出場 富岡 優月
- 【鉄道研究部】
令和6年度全国高等学校鉄道模型コンテスト 奨励賞
- 【新聞部】
第48回全国高等学校総合文化祭 新聞部門 出場
- 【弁論部】
第48回全国高等学校総合文化祭 弁論部門 出場
- 【通信制 文化的行事】
令和6年度第72回全国高等学校定時制通信制生徒 生活発表大会 海口 紗乙

9月20日(金)

第78回 定期戦 「9大会ぶりの敗北」

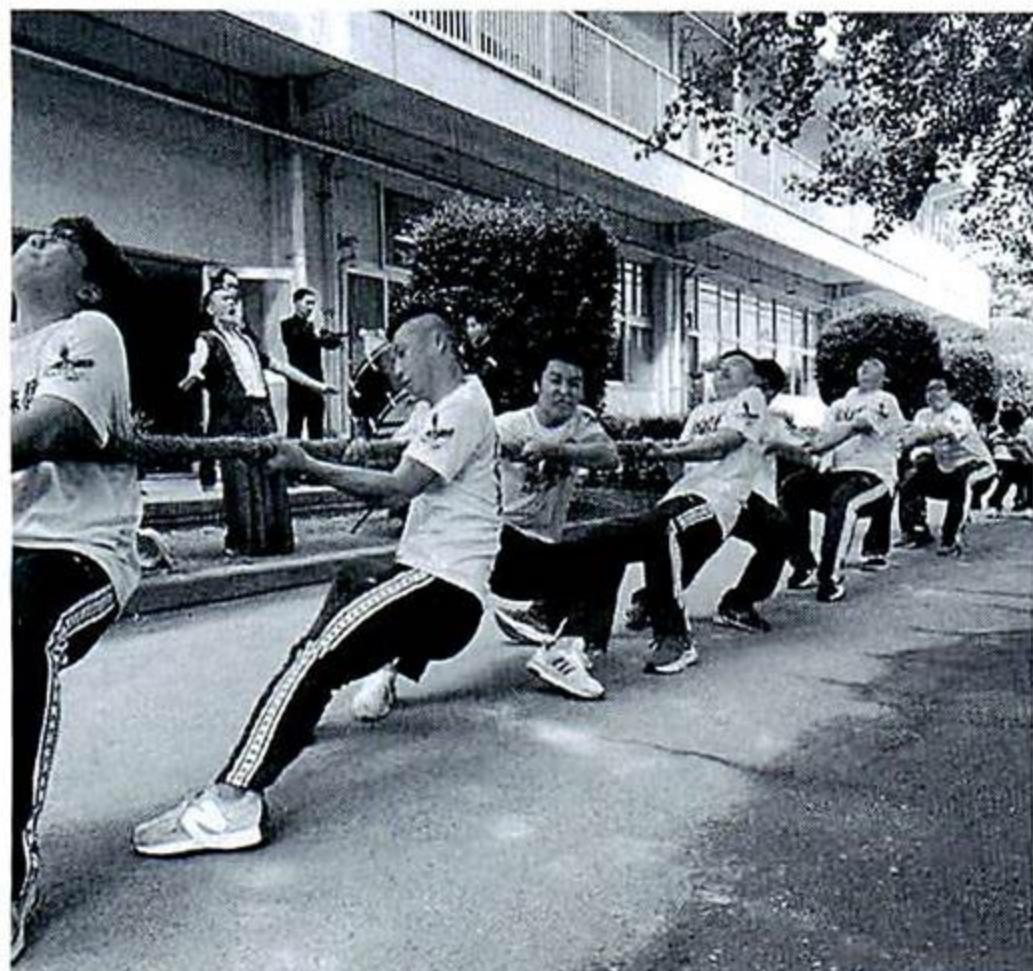
〈会場：前橋高校〉



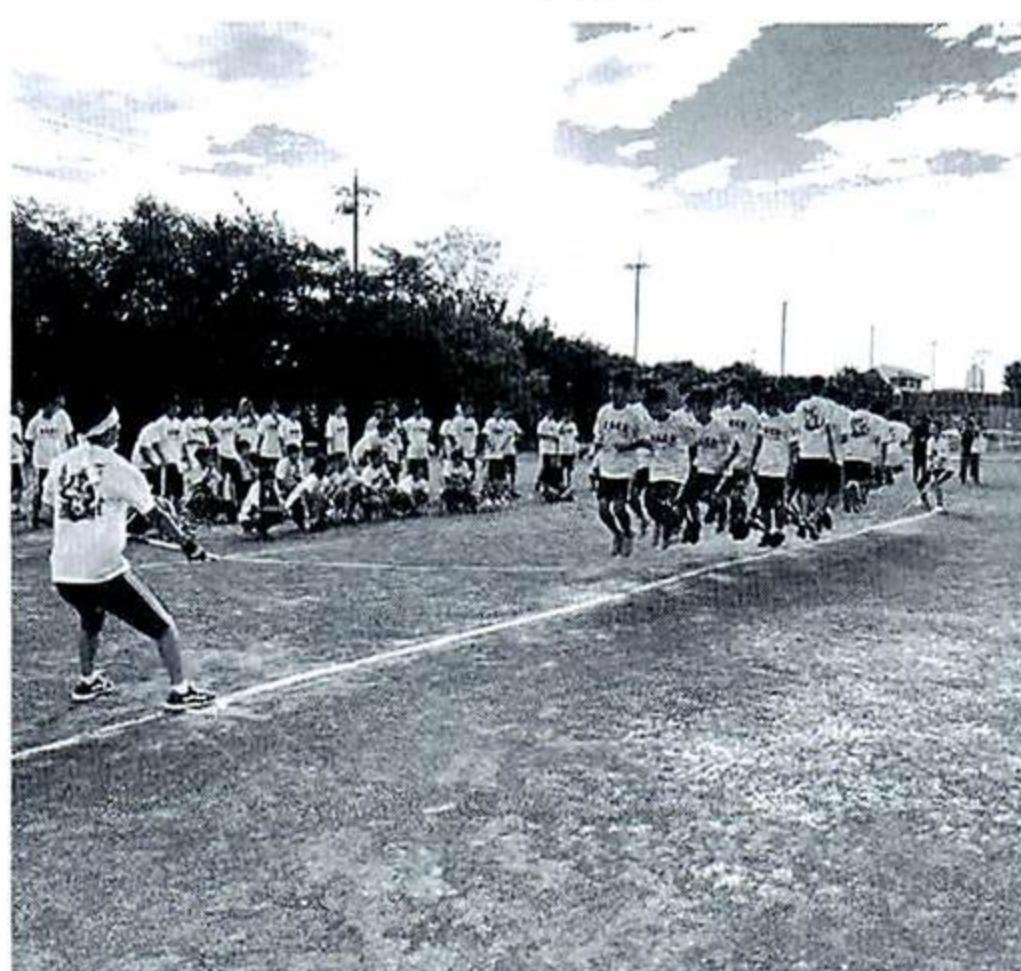
撃滅前橋



駅伝



綱引き



長縄

9連覇を果たすことができず悔しい。決起集会の時に「うぬぼれてはいけない」と話したが、自分自身も心の中でうぬぼれていたと実感した。実行委員長として、高高生の士気を十分に高めることができなかつたことが敗因の一つだと思う。定期戦の勝利には士気の高さが必要だ。だからこそ、来年は全学年が士気を最大限に高めて臨み、勝利してほしい。

実行委員長 3年 鈴木 晴斗

第78回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		駅伝	3	6
		綱引き	0	9
		玉入れ	0	9
		ソフトボール	3	6
		長縄跳び	2	4
0	6	卓球	3	6
0	6	陸上競技	4	5
6	0	ソフトテニス	3	6
6	0	バレーボール	4	5
6	0	バスケットボール	8	1
3	3	空手道		
0	6	バドミントン		
0	6	柔道		
0	6	剣道		
6	0	弓道		
3	3	サッカー		
6	0	硬式野球		
6	0	軟式野球		
0	6	テニス		
42	42	小計	30	57
総合計		高高	72	前高 99

★これまでの戦績は高高46勝、前高25勝、引き分け3です

卒業生合格者数(全日制) ()内は現役

大学	年次	6年	5年	令和4年	大学	年次	6年	5年	令和4年	大学	年次	6年	5年	令和4年
北海道大		6(6)	7(4)	8(5)	金沢大	11(10)	11(10)	5(4)	中央大	43(35)	59(47)	31(19)		
東北大		22(19)	26(24)	22(22)	信州大	4(4)	5(3)	3(3)	明治大	59(49)	66(56)	76(61)		
筑波大		3(3)	6(5)	8(8)	名古屋大	0(0)	1(1)	3(2)	上智大	6(4)	19(16)	7(4)		
千葉大		12(12)	9(9)	8(7)	京都大	2(1)	3(2)	4(4)	立教大	21(19)	26(25)	21(14)		
群馬大		24(20)	18(16)	25(21)	高崎経済大	15(14)	9(9)	12(10)	青山学院大	16(10)	13(11)	13(11)		
埼玉大		8(7)	8(8)	4(4)	東京都立大(首都大)	3(3)	1(1)	2(2)	法政大	39(37)	53(51)	48(36)		
東京大		8(6)	8(7)	11(5)	国公立大				日本大	30(28)	26(23)	33(24)		
一橋大		2(2)	5(5)	2(2)	医学部医学科	9(5)	13(10)	7(5)	東京理科大	61(56)	57(39)	63(56)		
東京工業大		3(2)	2(2)	2(2)	慶應大	24(16)	20(18)	20(13)	芝浦工業大	54(53)	53(48)	59(45)		
東京外国語大		1(1)	1(1)	1(1)	早稲田大	33(28)	36(32)	38(32)	明治学院大	5(5)	3(3)	7(6)		
横浜国立大		4(3)	5(3)	6(6)					同志社大	13(9)	1(1)	4(4)		
新潟大		15(15)	12(12)	19(17)					立命館大	24(22)	17(15)	28(25)		

◆◆掲示板◆◆

同期の皆様へ

50期 八木 資親 Tel.090-5393-7520

Y.yagi.1932-yoshi@docomo.ne.jp

平均年齢九十二歳の同期諸兄如何お過しですか。高中・高高時代、特に第二次世界大戦そして敗戦、その後の混乱期の体験を回顧し、よくぞ生き延びたと思う日々です。在世の諸兄のご健在を祈念します。名簿についての連絡は八木まで。

52期 深澤 岩吉 Tel.090-4954-7045

iwakichi1131@docomo.ne.jp

翠巒体育会創立50周年記念祝賀会にラグビー部OBとして出席、160余名の参加者の中で私が最年長でした。52期有志の懇親会は毎月実施しています。新参加者を希求、連絡は深澤まで。

54期 田端 穂 Tel.090-2905-4535

joe-t@pop21.odn.ne.jp

卒業70年米寿を迎え、それぞれ事情があり集りづらくなつたので、5月21日の総会で「五四会」解散を決定。卒業後初参加3名を含む28名参加しました。その間五四会作品展等の事業で存在感を示したこと同期諸君に感謝感謝。

55期 安藤 震太郎 Tel.090-4930-5161

s.ando1353-1@docomo.ne.jp

恒例の町田実郎宅の竹の子掘りを6月10日実施しました。岡田理、森貴信、発地威一郎、相川武夫、安藤震太郎が集まり昼飯を食べながら歓談のひと時を過ごしました。来年も実施予定です。参加をお待ちしております。

58期 佐藤 義夫 Tel.090-9810-5253

皆様元気にお過しの事と思います。去る5月10日に3年越しの最後の同期会が30名参加のもと賑やかに楽しく無事終わり半年が過ぎました。人生百年の時代が近づいています。少しでも近づける様お互い体を労り頑張りましょう。

64期 高橋 正一(64期代表代行) Tel.090-3140-0240

主催64期有志
「書(藤巻紀夫)と木彫(大沼規男)の二人展」
高崎シティギャラリー第四展示室
12月13日(金)~16日(月)
問合せ先/富岡賢治後援会事務局 027(386)6800

71期 坂本 正樹

nana710msaka@sky.plala.or.jp

原則毎月第3土曜日16時から、井野駅前のオリーブに集まっています。毎月第2・4日曜日9時からは指月庭の清掃等活動もしています。

同期の皆様、お顔をみせて下さい。

72期 糸井 丈之

我々72期は、72歳になるまで同期会活動を続けようと目標にしてきました。その歳も眼前に迫っています。今後どうするのか、これから皆で考えたいと存じます。

また72期LINEグループは現在53名です。希望者は090-3140-4225山縣まで連絡ください。

74期 國峯 賢一 Tel.090-6717-1298

kunimine3108@gmail.com

1月に急逝した、秋山賢治君の後任で代表幹事になりました國峯賢一です。LINEグループを作成し、脇君を中心になって仲間を増やしています。同期の協力で、74期が同窓会に貢献できるよう宜しくお願い致します。

76期 須郷 弘 Tel.090-3149-7299

lahaina.45.hiroshi@icloud.com

幹事大募集!! 76期は「七六会」と名付け夏のオリンピック年4年に一度同窓会を開催してきました。今年開催するにあたり幹事を募っています。年一~二度集り情報交換し楽しい時間を共有しながら一緒に夢を語りましょう。

77期 松本 基志 Tel.090-1604-4689

motoshi@able.ocn.ne.jp

今年は、コロナ禍で延期となっていた同窓会が開催でき、参加された皆さんと楽しい一時を過ごすことが出来ました。次回はロサンゼルスオリンピックの開催される2028年の予定です。それまで、皆さんお元気で!

78期 高橋 浩生 Tel.090-3246-5547

toorih.e15-0108@dream.com

新年総会同窓会後開催する78期会に出席しませんか? 昨年は、幹事期にお世話になったベリーダンスの環先生が駆けつけてくれました。出欠席を高橋浩生まで連絡するか「調整さん」に入力をお願いします。

メッセージ

◆各期代表幹事◆

80期 笹口 修男

nssasaguchi@m2.dion.ne.jp

年年歳歳花相似 嶸歳年人不同。還暦も過ぎ、皆さんどうお過ごですか? 2025年も同窓会新年総会の後に80期の同期会を行う予定です。よろしくお願ひします。

82期 野口 俊康

Tel.090-8777-7240

yasunog555@icloud.com

お世話になります。令和7年1月25日新年総会の後、82期の同窓会を開催します。今回は還暦新年会として、82期皆様の参加をお待ちしております。還暦の企画も募集中ですので、面白い企画をお願いします。

83期

小此木 正信

Tel.090-3319-3354

masa.okonogi@gmail.com

アラ還83期のみなさん、年々同窓会新年総会・懇親会への参加者が少なくなっています。是非多くのみなさんのご参加をお待ちしています。また、2026年の第124回同窓会では、祝還暦同期会も予定しています。

84期

粕川 泰彦

今年度は卒業以来40年を数えます。新年総会当日に同期の皆さんのが集まる機会を設けますので、奮ってご参加ください。詳細は84期事務局から別途メールでお送りします。

86期

佐藤 雄一

Tel.090-1467-6151

u-1@sato-hospital.gr.jp

元気ですか~? ゴルフ幹事も無事終わりました。集まつた仲間と、とても楽しく近況を語り合いました。またみんなと会えるのを楽しみにしています。1月の総会後には、同期会も行いますのでぜひご参加ください!

87期

静 和彦

Tel.027-361-4165

shizukak@sea.plala.or.jp

みなさん、こんにちは。来年は同窓会ゴルフの幹事期です。5月25日(日)サンコーカントリーを予定しております。また、みんなで一緒にがんばりましょう。打ち合わせを兼ねた飲み会やゴルフ会も企画しております。

90期

清水 敬浩

Tel.080-5095-5191

ak12-license.a@softbank.ne.jp

90期は4年後に開催される同窓会ゴルフ大会の幹事です。協力いただける諸兄を集めたく同期コンペも考えております。同期LINEへの参加や新年総会への来場を待っていますので、よろしくお願ひします。

91期

市川 英久

Tel.090-7105-7406

h_ichikawa@yuuhachi.co.jp

現在、同期112名のLINEグループで情報共有しています。また、同期ゴルフコンペも年1回で実施しています。詳しくは市川までお問い合わせ下さい。来年の新年総会後も同期会を予定中、奮ってご参加ください。

92期

横田 裕正

Tel.090-8720-3313

h-yokota@heiwakouki.co.jp

92期の連絡をLINE(現在161名)で行っております。まだ参加されていない人は連絡ください。毎年恒例ですが新年総会の後に92期懇親会を予定しています。詳細はLINEで案内させて頂きます。皆様の参加をお待ちします。

93期

川手 和義

Tel.090-9322-9594

kazuyoshi@gku.group

今年の新年総会幹事お疲れ様でした。同期皆さんのおかげで無事終えることができました。次の新年総会や同窓会ゴルフ等、同期で集まる機会もグループLINE等でお知らせしていくので、よろしくお願ひします!

94期

廣瀬 一成

Tel.080-5471-5207

kazushige.hirose@gmail.com

94期の皆さん、今年は同窓会幹事期です。8月に期別同窓会を開催し、メンバーも集まりました。実行委員会と連絡が取れていない方は、ぜひtakataka.kanji@gmail.comまでご連絡ください。

通信制

山本 好一

Tel.090-2543-3014

令和7年2月16日午後3時半より高崎高校会議室において定期総会を開催します。多くの会員の出席をお願いします。総会後、懇親会を予定しています。



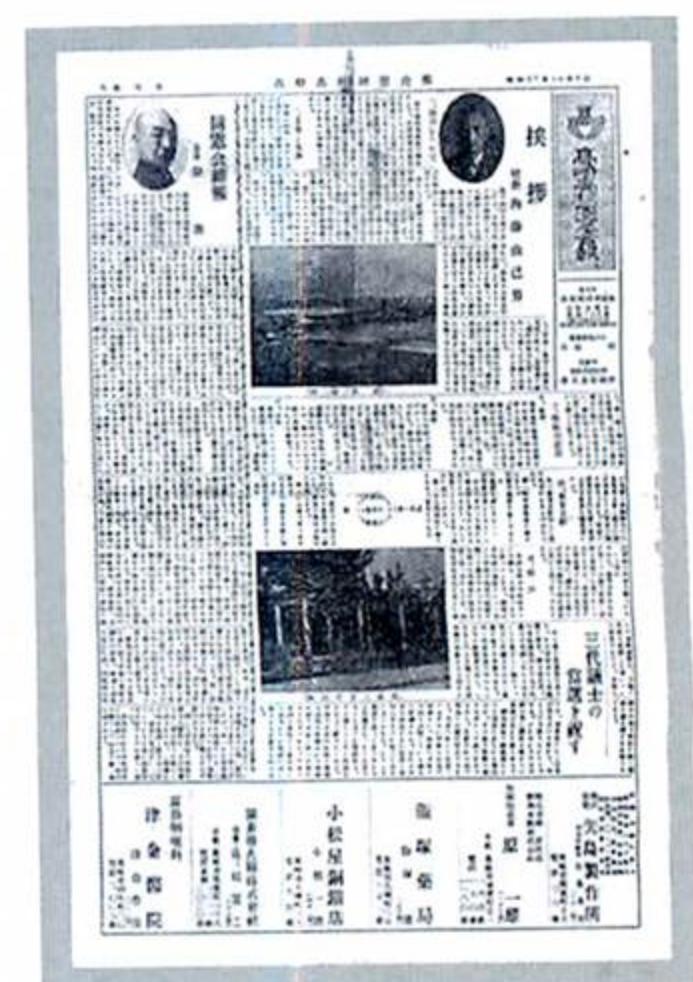
1. 同窓会報の創刊号を寄贈いただきました

創刊から第6号のご提供のお願いをしてまいりましたが、この度富田宣男氏(52期)より創刊号や高崎高校新聞を寄贈いただきました。

創刊当時の時代を残す貴重な資料として、大切に保管させていただきます。ご協力くださいましたこと、編集委員一同心より御礼申し上げます。

引き続き同窓会報2号(1968年)~6号(1972年)を探しておりますので、お持ちの方がおられましたら同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。

同窓会事務局 本部幹事長 花井好機(82期)



2. 高圧洗浄機を寄贈いただきました

指月庭や銅像の手入れに役立ててほしいと、54期卒業生より高圧洗浄機を寄贈いただきました。大切に使わせていただきます。



《バレー部インターハイ出場支援金を寄付》

バレー部が、7月31日から大分県で開催される全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場することが決定したので同窓会から支援金を渡しました。

写真左が佐鳥秋彦(85期)校長、右が同窓会の波瀬憲昭(81期)会長



注目

あのましも商店が戻ってきた

ましも商店 12年ぶりリニューアルオープン!!
テル子おばちゃんはご健在。

娘の妙子さんが引き継ぐ伝説のましもカレー。

《営業時間》 平日 14:00~18:30
土日祝 11:00~16:30まで
火曜定休 臨時休業あり



同窓会だより

第123回高中・高高同窓会新年総会・懇親会のご案内

94期 代表幹事
株式会社アサヒ商会 代表取締役 廣瀬 一成



同窓会員の皆様

ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第123回同窓会新年総会の当番幹事を務めます、第94期代表幹事の廣瀬と申します。2024年は、新年早々の地震を皮切りに、円安や生成AIの進化、オリンピックなど、社会を揺るがす様々な出来事がありました。また、高崎高校でも、数年ぶりに翠巒祭が完全開催するなど、新型コロナウイルスの影響から徐々に回復し、新たな時代の幕開けを感じさせる一年となりました。

このような背景の中、来年の1月25日(土)に第123回同窓会新年総会・懇親会を開催いたします。会場は昨年に引き続き、ホテルグランビューハイ崎となります。

第123回 高中・高高同窓会
新年総会・懇親会

【日 時】 2025年1月25日(土)15時より
【会 場】 ホテルグランビューハイ崎(高崎市柳川町70) TEL:027-322-1111
【会 費】 お一人様6,000円 ※95期以降は3,000円
新年総会:2F HARUNA 15時より
懇親会:3F AKAGI 16時頃より(立食形式を予定しております)

ご多忙のところ誠に恐縮ではあります
が、ぜひ多数の同窓生の皆様にご参加い
ただきたく存じます。また、新年同窓会に
「行ったことがない」「知らない」という同窓
生もいらっしゃるかと思いますので、ぜひご来場を予定されてい
る方は、周囲の同窓生にお声掛けいただき、より多くの皆様にご
来場いただけるようご協力ををお願いいたします。

当番期として、できるだけ多くの同窓生に楽しんでいただける
よう、運営準備に努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和6年 褒章・叙勲等受章者 (敬称略)

瑞宝双光章 竹内 源一(53期)	瑞宝双光章 峰 哲彦(55期)	瑞宝双光章 藤倉 新一(68期)
瑞宝双光章 植原 昭士(53期)	瑞宝双光章 吉田 弘(55期)	瑞宝重光章 羽鳥 光彦(71期)
瑞宝双光章 小林 隆志(53期)	旭日小綬章 滝沢 政吉(62期)	瑞宝中綬章 小高 章(71期)
瑞宝双光章 北原 文夫(54期)	瑞宝双光章 鈴木 孝雄(63期)	
瑞宝双光章 星 信定(54期)	旭日双光章 横田 貞一(65期)	

※掲載のご希望は事務局までご連絡ください。

昨年度 内川 将伯様(84期)は 藍綬褒章 の誤りでした。



◆翠巣文庫について◆ 翠巣文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈令和5年10月1日～令和6年9月30日〉

●著書／作者(寄贈日順)

- 戦時中のくらしと「赤城高原開拓物語」 鈴木越夫氏(62期)
- 鷹のつらきびしく老いて：評伝・村上鬼城 吉井 巧氏(77期)
- LNG：50年の軌跡とその未来 今井 伸氏(65期)
- 入門電気回路基礎力アップ問題集 牛田啓太氏(95期)
- ハイスコア！共通テスト攻略化学基礎 金井 明氏(68期)
- プラクティスマイクスパーフェクト<P.M.P.> 根岸義弘氏(84期)
- クラブ・カフカへようこそ 本田敬幸氏(本校通信制1984年3月卒業)
- 橋川文三の政治思想：三島由紀夫・丸山眞男・柳田国男との思想的交錯 須藤健一氏(97期)
- 巣島 武内 涼氏(95期)
- 流れ星たちの長野オリンピック：ある選手とあるコーチの物語 他8誌 角皆優人氏(72期)
- ニッポンの恐竜 他4誌 笹沢教一氏(83期)
- ラグビーと生きる：ノビーと呼ばれた男のW杯招致回顧録 真下 昇氏(56期)
- ウォー・グエン・ザップ将軍とベトナム近現代史 他5誌 菊池誠一氏(72期)
- 風籟 翠巣六四会文集第5号 翠巣六四会 今井 哲氏(64期)
- ジャーナリズム・リテラシー 岡田 豊氏(82期)

令和6年度高崎高校人事異動

[全日制]

〈退任者・転出者〉

校長 小林 智宏 退職
国語 渡辺 彰 退職
理科 川田 智広 太田高
英語 大久保泰希 沼田高

〈新任者・転入者〉

校長 佐鳥 秋彦 太田女子高
国語 箕輪 学 前橋女子高
理科 青木 紀仁 太田高
英語 小林 量 沼田高

[事務部]

〈転出者〉

主幹 池田 恭治 高崎工業高
主事(育補) 登坂 結子 渋川女子高

〈転入者〉

副主幹 木暮 大作 富岡特支

[通信制]

〈転出者〉

国語 神保 昇一 任期終了
保健体育 兵藤 敦紀 任期終了

〈転入者〉

国語 伊藤 貴彦 市立前橋高
保健体育 高山 紗生 高女・勢農・清陵

◆各地区同窓会 活動状況◆

※肩書きはいずれも開催当時のものになります。

◆榛麓翠巒会

榛麓翠巒会は榛名山麓地区の高高OB会です。この地区出身者が主ですが、東京、埼玉よりも駆けつけていただいております。記録を辿ってみると、49期の友松稔先輩が同窓会報第37号に寄稿した記事を見つけました。昭和49年頃集まりが始まり、「群馬郡西北部高中OB会」と呼称、後に榛麓翠巒会となったとのことです。すると今年は50周年記念会となります。

昨年は串田前同窓会長、坂本同窓会長に出席いただきました。例年富岡市長、橋爪県議も参加され、会員数約100名、参加者25名ほどの集まりです。旧群馬町の食亭「つかさ」を会場として、懇親会に先立ち講演を行っております。昨年度は高崎高校より小林智宏校長(81期)、飯塚勇一先生(83期)に出席いただき「高崎高校の今と未来」と題してお話をいただきました。普段なかなか聞くことの出来ない話を聞くことが出来ました。今後も11月第2土曜日午後5時より開催いたします。若手90期代の同窓生にも声を掛けております。連絡をお待ちしております。

(事務局63期 立見友孝 090-1865-4383)



◆関西翠巒会

本学より、一番遠方で活動しているのではないかと思っている関西の同窓会です。関西には高高卒業生が300人程は在住している筈ですが、会に属し定期的に活動しているのは30人前後です。総会が年1回、懇親会が2回、ゴルフコンペ(4年前から前高と合同で行っています。)2回、ハイキング(県人会に合流)2回などの活動をしています。本年2月の総会には本部より小林智宏校長、波渕憲昭同窓会長、串田紀之育英会理事長、松本裕文教育後援会長をお迎えし、大いに盛り上りました。次回も是非、ご列席をお願い致します。

これらの活動は会誌を年1回発行し記録しています。その効果か、若干、会員が増える気配があるかと思いますが、やはり高齢化に伴い先細りは避けられないと存じますので、知人で関西在住、または転居される方がいましたら、当会をご紹介ください。

会長TEL.090-4761-8013

会長 宮崎 和典 (67期)



◆東京同窓会

令和6年6月14日に明治記念館にて幹事会が開催され、42名の会員が集まりました。令和5年度の活動報告、会計報告、新任の常任幹事に大木章史(94期)さん、翠巒副編集長に渋沢雅道(95期)さん2名の選出、年会費の改定(3,000円)に関して全て承認されました。

8月6日には銀座木村家にて暑気払い懇親会、さらに若手会を開催しています。また、翠巒編集会議は柴山温行編集長(73期)を中心編集委員のみが集まり翠巒70号の制作を行いました。10月25日の総会時には記念号を無事に配布する事が出来ました。会員の皆様には随時発送致しますのでお楽しみにして下さい。また、今年度より翠巒への広告掲載を復活しました。是非とも同窓生へのPRに翠巒への広告掲載をお願いします。

10月25日の総会では、母校の佐鳥秋彦校長先生(85期)、母校同窓会の波渕憲昭会長(81期)、前高京浜同窓会・今井敏会長、群馬県東京事務所・富澤孝史所長、群馬県人会連合会・町田譽曾彦会長をゲストにお招きし、58期から112期までの総勢80名にご参加頂きました。

今年の6月に日本映画テレビプロデューサー協会功労賞を受賞した神成尚亮(72期)さんによる「テレビが紡いだご縁とご恩」の特別講演では、映像を見ながら楽しく有意義な話を聴くことが出来まし

た。懇親会を通じ同窓生で名刺交換や近況報告などをする事により、東京同窓会会員一同がより一層一致団結することが出来る会となりました。

最後は毎回恒例ではありますが、応援団OBと94期の幹事期の皆さんのが音頭をとり、校歌と翠巒を合唱し閉会となりました。

12月9日には表参道バンブーにて忘年会、2025年2月26日に新年会を予定しています。

東京同窓会は、イベント盛り沢山の楽しい同窓会です。現在、会員を大募集中です。皆様からのご連絡をお待ちしています。



「ニューヤングオーケストラ」幹事 田沼 均(66期)

この度は、一文を寄せる機会をいただき、ありがとうございます。私は現在、『ニューヤングオーケストラ』という名称のバンドに参加しています。高校時代、音楽部（マンドリン部・吹奏楽部）に属していた仲間が、還暦を機に結成したものです。卒業後も各自が音楽活動を継続していたこともあり、順調にスタートできました。メンバーは9名、モットーはバンド名にならって「明るく・楽しく・若々しく」です。レパートリーは、ジャンルを問わず450曲余り。様々なリクエストに応えられると自負しています。新型コロナがまん延していた間は、練習もままならぬ状態でしたが、落ち着きを見せてからは毎月のように「お座敷がかかる」ありがたい状況です。演奏する機会は、公民館、各種団体・事業所の行事や催し物などの場であり、多くの方の前で演奏することに充実感を感じています。最後に…結成の中心にいた同期の大畠則夫さんは、7年前に故人となってしまいました。彼のためにも末長く活動を続けたいと思っています。



翠巒クラブ #10

戸澤 健(92期)

高崎高校野球部OBだけで構成される我がチームは、2010年に発足しました。現在は73期から101期のOBが所属しており、壮年クラス（40歳以上）と熟年クラス（50歳以上）で活動しています。ユニホームも母校と同基調のデザインである我がチームは、県内でも注目のチームです。今まで県大会出場・上位進出を果たしておりますが、さらなる好成績を目指し、先輩や後輩、同期からの厳しいヤジにも負けず、現役高校生同様に白球を追いかけています。

また「マスターズ甲子園」と呼ばれるOB大会が開催されていますが、この群馬予選にも我々翠巒クラブが中心となり参加しています。とは言っても40歳以上の我々は裏方のお手伝いが主で、試合には20/30代の「翠巒クラブ予備軍」が出場し奮闘しています。最高成績は県ベスト4。甲子園まであと少しです。

活動状況は硬式野球部OB会ホームページ（<http://takataka-baseballob.com/>）にも掲載しています。是非ご覧ください。



第30回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

■開催日 2024年5月26日(日) ■開催場所 サンコーカントリークラブ ■参加人数 185名 ■当番幹事期 86期

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)

《グロスの部(東コース)》

順位	期	GROSS
優勝	89期	340
準優勝	93期	365
3位	78期	369

《グロスの部(西コース)》

順位	期	GROSS
優勝	81期	306
準優勝	85期	329
3位	92期	329

●個人戦

《ベストグロス賞》

順位	氏名	期	GROSS
東コース	沼野 藤雅	89期	81
西コース	渡邊 俊裕	81期	71

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	櫻井 丈示	70期	88	19.2	68.8
準優勝	橋爪 洋介	85期	77	6.0	71.0
3位	廣神 篤幸	89期	83	12.0	71.0

第30回高崎高校同窓会ゴルフ大会表彰式
2024年5月26日(日) サンコーカントリークラブ



団体ネット優勝81期の皆様



個人優勝70期の櫻井 丈示様



ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

◆公益財団法人「翠巒育英会」◆

担当者:立見 友孝(63期)

[理事長就任ご挨拶]

同窓会在任中は大変お世話になりました。過日の理事会・評議員会により理事長に選任されましたので宜しくお願ひいたします。通例ですと4年程度在任させて頂くことになります。

翠巒育英会は在校生に対する奨学金の給付、学校への教育資金援助などを行っている公益財団法人です。奨学生は概ね各学年6名程度に月額1万円の給付を行い、学校へはご要望に基づく施設整備や全国大会・関東大会出場者などに対する補助を

行っています。

基本財産を投資信託などで運用するわけにもまいりません。微々たる預金利息くらいしかつきませんので、皆様からの毎年のご寄付に頼らざるを得ません。特に経済・社会情勢からみて奨学金の給付が1万円では足りないとも思われる場合もあり、今後理事会などでもその増額を検討すべきとも考えられますので、宜しくお願ひいたします。

坂本 正樹(71期)

[事務局より]

毎年の同窓生よりのご厚志には深く感謝申し上げます。育英会では1万円以上のご寄附に対し、「控除対象寄附金受領証明書」をお送りしております。確定申告の際に税額控除されますのでご利用下さい。今後とも現役生徒、母校へのご支援宜しくお願ひ申し上げます。

振込口座:群馬銀行高崎田町支店

普通 0756241 ザイ)スイランイクエイカイ

連絡先:高崎高校内事務局 027-324-0074まで宜しくお願ひいたします。

第57号掲載後 高額ご厚志寄付者ご芳名

期	ご芳名	期	ご芳名
53期	飯嶋 重信	67期	串田 紀之
53期	麻生 悅造	68期	藤倉 新一
58期	吉野 矩久	72期	村山 利之
59期	高橋 昭雄	81期	小林 智宏
65期	横田 貞一	84期	一倉 史人
67期	松本 裕文		
93期	第122回新年同窓会総会幹事(代表幹事 川手 和義)		
86期	第30回同窓会ゴルフ大会幹事(代表幹事 佐藤 雄一)		

奨学金給付:1~3年生17名 月1万円 計204万円

令和6年度新役員一覧

理事長	71期	坂本 正樹	昇任
副理事長	75期	清水 正郎	
〃	81期	波渦 憲昭	新任
常務理事	63期	立見 友孝	
理事	58期	若山 亨	
〃	67期	串田 紀之	
〃	73期	中村 康晴	
〃	75期	島田 雅典	
〃	76期	根岸 赴夫	
監事	77期	松岡 光弘	
〃	80期	梁瀬 剛	
評議員	63期	羽鳥 修司	
〃	70期	杉浦 芳郎	
〃	72期	糸井 丈之	
〃	73期	鳥居 吉二	
〃	74期	國峯 賢一	
〃	76期	須郷 弘	
〃	79期	竹中 隆	
〃	81期	曾根 光広	新任
〃	82期	花井 好機	
〃	85期	大田部 功	
〃	85期	清水 威	新任
〃	88期	神宮 嘉一	新任
〃	89期	井上 幸己	新任
〃	89期	田島 敏之	新任
〃	91期	清水 元	新任
〃	66期	小林 優公	退任
〃	67期	仙田 健一	退任
〃	71期	内山 充	退任
〃	74期	秋山 賢治	逝去
〃	75期	橋爪 良真	退任
〃	78期	熊井戸浩一	退任

令和5年度 全国・関東大会出場一覧・激励金一覧

月日	大会名	会場	部活動名	激励金
R5.5	I S E F (国際学生科学技術フェア)	アメリカ	物 理 部	30,000
R5.7	東日本選手権大会	秋 田 県	ソ フ ト テ ニ ス 部	40,000
R5.7	全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール	大 阪 府	マ ン ド リ ン 部	100,000
R5.8	全国高校総合文化祭 弁論部門	鹿 児 島 県	英 語 弁 論 部	10,000
R5.7	関東高校大会	東 京 都	水 泳 部	10,000
R5.7	全国高校総合体育大会	北 海 道	ソ フ ト テ ニ ス 部	20,000
R5.7	全国高校総合文化祭 新聞部門	鹿 児 島 県	新 聞 部	20,000
R5.7	全国高校総合文化祭 文芸部門	鹿 児 島 県	文 芸 部	10,000
R5.8	関東選手権大会	神 奈 川 県	陸 上 競 技 部	10,000
R5.8	北関東地方大会	群 馬 県	軟 式 野 球 部	60,000
R5.8	全国高校鉄道模型コンテスト全国大会	東 京 都	鐵 道 研 究 部	60,000
R5.8	全国高校俳句選手権大会 俳句甲子園	愛 媛 県	文 芸 部	60,000
R5.8	関東高校選手権大会	神 奈 川 県	和 太 鼓 部	100,000
R5.8	特別国体関東ブロック大会(群馬選抜)	埼 玉 県	ラ グ ビ 一 部	10,000
R5.9	関東高校個人選手権大会	東 京 都	弓 道 部	10,000
R5.10	全国ボピュラーステージ吹奏楽コンクール東日本大会	埼 玉 県	吹 奏 楽	100,000
R5.11	関東大学選抜・高校選抜対抗戦大会	埼 玉 県	ソ フ ト テ ニ ス	60,000
R6.1	関東高校選抜大会	東 京 都	空 手 道	10,000
R5.10	関東高校新人選手権大会	埼 玉 県	陸 上 競 技 部	40,000
R5.10	関東高校登山大会	埼 玉 県	山 岳 部	40,000
R5.12	全国ボピュラーステージ吹奏楽コンクール全国大会	神 奈 川 県	吹 奏 楽	100,000
R6.1	関東高校大会	群 馬 県	ス キ ー	10,000
R6.2	西関東アンサンブルコンテスト	群 馬 県	吹 奏 楽	40,000
R6.2	関東高校都県対抗戦(県選抜チーム選手)	茨 城 県	ラ グ ビ 一 · 個 人	10,000
R6.3	全国高校生かるたグランプリ	東 京 都	百 人 一 首	10,000
R6.3	科学の甲子園全国大会	茨 城 県	S S H	60,000
R6.3	全国中高生情報学研究コンテスト	神 奈 川 県	物理部 · 個 人	70,000
R6.3	ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋	愛 知 県	物理部 · 団 体	60,000
件数計	28件		延 べ 人 数 計	166 名
			総 合 計	1,160,000

*令和5年度の決算報告につきましては同窓会ウェブサイトにて確認いただけます。

高高同窓会 予算決算報告

令和5年度 通常会計決算 (令和5年1月1日～令和5年12月31日)

					(単位:円)
収入の部					
費目	予算額	決算額	増減	備考	
繰越金	500,322	500,322	0	前年繰越金	
入会金	2,852,000	2,893,700	41,700	全員制283名(@9,900) 通信制46名(@2,000)	
維持会費	8,500,000	7,701,804	△ 798,196	2,725名(振込手数料97,156円を除く)	
雑収入	247,678	1,395,373	1,147,695	第121回新年総会残金・ Webサボ協賛金・記念品収入ほか	
合計	12,100,000	12,491,199	391,199		

(単位:円)

令和6年度 通常会計予算 (令和6年1月1日～令和6年12月31日)

					(単位:円)
収入の部					
費目	今年度予算	前年度予算	差引増減	備考	
繰越金	265,321	500,322	△ 235,001	前年度繰越金	
入会金	2,852,000	2,852,000	0	全員制280名(@9,900) 通信制40名(@2,000)	
維持会費	8,100,000	8,000,000	△ 400,000	3,000名(常任理事10,000、 理事5,000、一般2,000)	
雑収入	252,679	247,678	5,001	Webサボ協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか	
合計	11,470,000	12,100,000	△ 630,000		

(単位:円)

支出の部				
費目	予算額	決算額	残額	備考
会議費	1,200,000	1,362,474	△ 162,474	
①会議費	700,000	838,578	△ 138,578	常任理事会・理事会・ 本部幹事会ほか
②総会費	500,000	523,896	△ 23,896	新年総会準備費ほか
祝賀費	350,000	377,316	△ 27,316	叙勲記念品・ 東京同窓会等祝金ほか
餞別費	200,000	213,735	△ 13,735	令和4年度末離退任職員餞別
慶弔費	100,000	93,500	6,500	供花代
通信印刷費	400,000	401,997	△ 1,997	維持会費納入礼状・案内状・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	200,000	80,000	120,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	4,700,000	4,566,645	133,355	同窓会報発行費・翠巒体育 発行費・発送費ほか
事務費	1,700,000	1,499,472	200,528	事務職員人件費・事務用品ほか
母校支援費	1,700,000	1,403,153	296,847	
①同窓会長賞	100,000	34,430	65,570	賞状・文鎮ほか
②入学卒業記念品	700,000	642,743	57,257	証書ファイル・ネクタイピン
③諸活動補助	900,000	725,980	174,020	SSH活動補助ほか
資料整理費	100,000	90,200	9,800	Webサイト管理費ほか
補助費	400,000	352,000	48,000	翠巒体育会補助・国際学生 科学技術フェア参加激励金ほか
環境整備費	600,000	290,497	309,503	指月庭およびバラ園の維持管理費・ 歴代会長等表示銘板
雑費	300,000	494,889	△ 194,889	データ投下代
特別会計積立	100,000	1,000,000	△ 900,000	次世代会員拡大等活動費
予備費	50,000	0	50,000	
合計	12,100,000	12,225,878	△ 125,878	

$$\text{収入総額} - \text{支出総額} = \text{差引残額}$$

$$12,491,199\text{円} - 12,225,878\text{円} = 265,321\text{円} \text{ (次年度へ繰越し)}$$

特別会計

収入の部	繰越金(前年繰越金)	10,629,045円
	令和5年度通常会計から	1,000,000円
	雑収入(預金利息)	152円
	合計	11,629,197円
支出の部	母校充実費(3F会館用冷蔵庫・ マイクロバス修理代)	1,684,650円
	次世代会員拡大会議代	280,000円
	合計	1,964,650円

$$\text{収入総額} - \text{支出総額} = \text{差引残額}$$

$$11,629,197\text{円} - 1,964,650\text{円} = 9,664,547\text{円} \text{ (次年度へ繰越し)}$$

特別会計

収入の部	繰越金(前年度繰越金)	9,664,547円
	令和5年度通常会計から	100,000円
	雑収入(預金利息等)	453円
	合計	9,765,000円
支出の部	母校充実費(施設・設備整備費)	2,000,000円
	次世代会員拡大等活動費	720,000円
	合計	2,720,000円

$$\text{収入総額} - \text{支出総額} = \text{差引残額}$$

$$9,765,000\text{円} - 2,720,000\text{円} = 7,045,000\text{円} \text{ (令和6年末)}$$



2024年6月27日 翠巒体育会50周年記念祝賀会

高崎高校同窓会は会員の皆様の維持会費によって運営されています

同窓会維持会費納入と同窓会・翠巒育英会へのご寄付のお願い

同封の振込取扱票により納入をお願い致します。郵便局振込は、振込手数料が掛かりますので、コンビニでの振り込み、QRコード決済、クレジットカード支払いをおすすめ致します。



群馬県立高崎高等学校
同窓会報

【発行人】 波瀬憲昭(81期) 【編集委員】 田端 穂(54期) 波多野重雄(77期) 竹内 聰(79期)
【編集委員長】 新井重雄(78期) 花井好機(82期) 有田喜一郎(88期) 井上幸己(89期)
青池雄一(89期) 木村拓哉(100期) 菊地将史(107期)

編集
後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第58号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、誠にありがとうございました。(編集委員)

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1

TEL&FAX 027-320-6024 Eメール:suiran@email.plala.or.jp



同窓会ウェブサイト